FLUORINATED 1,4-DISUBSTITUTED PIPERIDINE DERIVATIVES

Publication number: WO9805641

Publication date:

1998-02-12

Inventor:

TSUCHIYA YOSHIMI (JP); NOMOTO TAKASHI (JP); OHSAWA HIROKAZU (JP); KAWAKAMI KUMIKO (JP);

OHWAKI KENJI (JP); NISHIKIBE MASARU (JP)

Applicant: BANYU PHARMA CO LTD (JP): TSUCHIYA YO

BANYU PHARMA CO LTD (JP); TSUCHIYA YOSHIMI (JP); NOMOTO TAKASHI (JP); OHSAWA HIROKAZU

(JP); KAWAKAMI KUMIKO (JP); OHWAKI KENJI (JP);

NISHIKIBE MASARU (JP)

Classification:

- international:

C07D211/58; C07D401/06; C07D405/06; C07D409/06;

C07D211/00; C07D401/00; C07D405/00; C07D409/00;

(IPC1-7): C07D211/46; A61K31/445; C07C59/56; C07D211/58; C07D213/75; C07D401/06; C07D405/06;

C07D409/06

- european:

C07D211/58; C07D401/06; C07D405/06; C07D409/06

Application number: WO1997JP02600 19970728

Priority number(s): JP19960219436 19960801; JP19970053979 19970221

Also published as:

EP0930298 (A1)

EP0930298 (A4)

BR9711108 (A) EP0930298 (B1)

TR9900204T (T2) TR200001482T (T2)

CA2261680 (C) AU716050B (B2)

less <<

Cited documents:

WO9713766

WO9633973

Report a data error here

Abstract of WO9805641

Novel fluorinated 1,4-disubstituted piperidine derivatives represented by general formula (I) or pharmaceutically acceptable salts thereof, wherein Ar represents aryl or heteroaryl having 1 or 2 heteroatoms selected from the group consisting of nitrogen, oxygen and sulphur in which one to three hydrogen atoms on the aryl or heteroaryl ring may be substituted by lower alkyl, etc.; R<1> represents C1-3 cycloalkyl in which one to four arbitrary hydrogen atoms may be substituted by fluorine; R<2> represents saturated or unsaturated, aliphatic C5-15 hydrocarbon in which one to six arbitrary hydrogen atoms may be substituted by fluorine, aralkyl, arylalkenyl, or heteroarylalkyl or heteroarylalkenyl having one or two heteroatoms selected from the group consisting of nitrogen, oxygen and sulfur, in which one to three hydrogen atoms on the aralkyl, arylalkenyl, heteroarylalkyl or heteroarylalkenyl ring may be substituted by lower alkyl, trifluoromethyl, cyano, hydroxy, nitro, lower alkoxycarbonyl, halogeno, lower alkoxy, amino, etc.; and X represents O or NH, provided that at least one of R<1> and R<2> has one or more fluorine atoms. Because of having selective muscarinic receptor antagonism and being excellent in oral activity, persistence of the action and dynamic in vivo, these compounds are useful as efficacious and safe remedies or preventives with little side effects for respiratory, urologic and digestive diseases.

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide



世界知的所有権機関国 際 事 務 局

B12

特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(51) 国際特許分類6 C07D 211/46, 211/58, 213/75, 401/06, 405/06, 409/06, A61K 31/445, C07C 59/56 (11) 国際公開番号

WO98/05641

(43) 国際公開日

1998年2月12日(12.02.98)

(21) 国際出願番号

PCT/JP97/02600

JP

JР

ΑI

(22) 国際出願日

1997年7月28日(28.07.97)

(30) 優先権データ

特願平8/219436 特願平9/53979 1996年8月1日(01.08.96)

1997年2月21日(21.02.97)

(71) 出願人(米国を除くすべての指定国について) 萬有製薬株式会社

(BANYU PHARMACEUTICAL CO., LTD.)[JP/JP] 〒103 東京都中央区日本橋本町2丁目2番3号 Tokyo, (JP)

(72) 発明者;および

(75) 発明者/出願人 (米国についてのみ)

土谷義己(TSUCHIYA, Yoshimi)[JP/JP]

大沢浩一(OHSAWA, Hirokazu)[JP/JP]

川上久美子(KAWAKAMI, Kumiko)[JP/JP]

大脇健二(OHWAKI, Kenji)[JP/JP]

錦辺 倭(NISHIKIBE, Masaru)[JP/JP]

〒300-26 茨城県つくば市大久保3番地

萬有製薬株式会社 つくば研究所内 Ibaraki, (JP)

野本貴史(NOMOTO, Takashi)[JP/JP] 〒360-02 埼玉県大里郡妻沼町大字西城810番地 萬有製薬株式会社 開発研究所内 Saitama, (JP)

(81) 指定国 AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, CA, CH, CN, CU, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, GB, GE, GH, HU, IL, IS, JP, KE, KG, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MD, MG, MK, MN, MW, MX, NO, NZ, PL, PT, RO, RU, SD, SE, SG, SI, SK, SL, TJ, TM, TR, TT, UA, UG, US, UZ, VN, YU, ZW, ARIPO特許 (GH, KE, LS, MW, SD, SZ, UG, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), 欧州特許 (AT, BF, CH, DE, DK,

ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE), OAPI特許 (BF,

BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類 国際調査報告書

(54)Title: FLUORINATED 1,4-DISUBSTITUTED PIPERIDINE DERIVATIVES

(54)発明の名称 含フッ素1,4-ジ置換ピペリジン誘導体

$$HO \xrightarrow{R^1} C - X - C N - R^2 \qquad (I)$$

(57) Abstract

Novel fluorinated 1,4-disubstituted piperidine derivatives represented by general formula (I) or pharmaceutically acceptable salts thereof, wherein Ar represents aryl or heteroaryl having I or 2 heteroatoms selected from the group consisting of nitrogen, oxygen and sulphur in which one to three hydrogen atoms on the aryl or heteroaryl ring may be substituted by lower alkyl, etc.; R¹ represents C_{1.3} cycloalkyl in which one to four arbitrary hydrogen atoms may be substituted by fluorine; R² represents saturated or unsaturated, aliphatic C_{5.15} hydrocarbon in which one to six arbitrary hydrogen atoms may be substituted by fluorine, aralkyl, arylalkenyl, or heteroarylalkyl or heteroarylalkenyl having one or two heteroatoms selected from the group consisting of nitrogen, oxygen and sulfur, in which one to three hydrogen atoms on the aralkyl, arylalkenyl, heteroarylalkyl or heteroarylalkenyl ring may be substituted by lower alkyl, trifluoromethyl, cyano, hydroxy, nitro, lower alkoxycarbonyl, halogeno, lower alkoxy, amino, etc.; and X represents O or NH, provided that at least one of R¹ and R² has one or more fluorine atoms. Because of having selective muscarinic receptor antagonism and being excellent in oral activity, persistence of the action and dynamic *in vivo*, these compounds are useful as efficacious and safe remedies or preventives with little side effects for respiratory, urologic and digestive diseases.

$$HO \xrightarrow{Ar} O = X - N - R^2 \quad [I]$$

[式中、Arはアリール基又は窒素原子、酸素原子及び硫黄原子からなる群 から選ばれる1~2個のヘテロ原子を有するヘテロアリール基(該アリール 基及びヘテロアリール基の環上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル 基等で置換されていてもよい。)を表し、R'は任意の1~4個の水素原子 がフッ素原子で置換されていてもよい炭素数3~6個のシクロアルキル基を 表し、R[®]は任意の1~6個の水素原子がフッ素原子で置換されていてもよ い炭素数5~15個の飽和又は不飽和の脂肪族炭化水素基、アラルキル基、 アリールアルケニル基又は窒素原子、酸素原子及び硫黄原子からなる群から 選ばれる1~2個のヘテロ原子を有するヘテロアリールアルキル基若しくは ヘテロアリールアルケニル基(該アラルキル基、アリールアルケニル基、ヘ テロアリールアルキル基及びヘテロアリールアルケニル基の環上の任意の1 ~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ甚、水 酸基、二トロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコ キシ基、アミノ基等で置換されていてもよい。)を表し、そしてXはO又は NHを表す。但し、R'及びR'の中、少なくとも一つは、一以上のフッ素原 子を有する。〕で示される新規な含フッ素1、4-ジ置換ピペリジン誘導体 又はその薬学的に許容されうる塩に関するものである。

本発明の化合物は選択的ムスカリンM₃受容体拮抗作用を有し、かつ、優れた経口活性、作用持続性及び体内動態を示すため、副作用が少なく安全で有効な、呼吸器系疾患、泌尿器系疾患消化器系疾患の治療又は予防剤として有用である。

参考情報

PCTに基づいて公開される国際出版のパンフレット第一頁に記載されたPCT加夏国を同定するために使用されるコード

ALM T ALM	EFFRGBEHMNFで、 スフフガ英グガガギャー・エーシン・ファインンン・ジナビア・リネラニラア・ステー・アーシン・ファイスイタタリス・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・	RSTUVC DE TATE TO THE TOTAL THE	SGIKLNの ター・ ア サ カ 和 国
---	---	--	-----------------------

明細書

含フッ素 1, 4 - ジ置換ピペリジン誘導体

5 技術分野

本発明は、新規な含フッ素 1, 4 - ジ置換ピペリジン誘導体、その製造方法、それを含む医薬及びその医薬としての使用、特に各種の呼吸器系疾患、 泌尿器系疾患又は消化器系疾患の治療又は予防のための使用に関する。

10 背景技術

15

20

25

ムスカリン受容体への拮抗は気管支拡張、胃腸運動抑制、酸分泌抑制、口 渇、散瞳、膀胱収縮抑制、発汗減少、頻脈等の作用を引き起こすことが古く から知られている [Basic and Clinical Pharmacology 4th Ed., (APPLETON & LANGE) PP83-PP92, (1989)及びDrug News & Perspective, 5 (6), PP345-PP352 (1992)等参照]。

近年、ムスカリン受容体には少なくとも3種のサブタイプが存在し、M₁受容体は主に脳に、M₂受容体は心臓等に、そしてM₃受容体は平滑筋や腺組織に存在することが明らかとなった。しかしながら、現在までに数多く知られている既存のムスカリン受容体に拮抗作用を有する化合物はいずれもこれら3種のサブタイプに対して非選択的に拮抗してしまう。そのため例えば、呼吸器系疾患の治療剤又は予防剤として用いようとする場合、口渇、悪心、散瞳等の副作用に加えて、特にM₁受容体に起因する痴呆等の中枢神経系及びM₂受容体に起因する心悸亢進等の心臓に関わる重篤な副作用が問題となり、その改善が強く求められている。

本発明者らは、このような薬剤として、1, 4-ジ置換ピペリジン誘導体を開示した(PCT WO96/33973参照)。しかし更に優れた薬剤の創製が望まれる。

30 本発明の目的は、前記の公知化合物より更に優れた薬剤を創製することに

10

15

20

25

30

より、高選択的ムスカリンM₃受容体拮抗作用を有し、副作用が少なく安全で有効な、ムスカリンM₃受容体が関与する疾患、例えば慢性閉塞性肺疾患、慢性気管支炎、喘息及び鼻炎等の呼吸器系疾患;過敏性腸症候群、痙性大腸炎、憩室炎及び消化器系平滑筋れん縮に伴う疼痛等の消化器疾患;神経性頻尿、神経因性膀胱、夜尿症、不安定膀胱、膀胱痙縮、慢性膀胱炎等の疾患における尿失禁及び頻尿等の泌尿器系疾患;及び乗り物酔いの治療又は予防剤を提供することである。

発明の開示

本発明は、一般式「Ⅰ〕

$$HO \xrightarrow{R^1} C -X - CN - R^2 \quad [I]$$

「式中、Arはアリール甚又は窒素原子、酸素原子及び硫黄原子からなる群から選ばれる1~2個のヘテロ原子を有するヘテロアリール基(該アリール基及びヘテロアリール基の環上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ基、水酸基、ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、アミノ基又は低級アルキルアミノ基で置換されていてもよい。)を表し、R'は任意の1~4個の水素原子がフッ素原子で置換されていてもよい炭素数3~6個のシクロアルキル基を表し、R'は任意の1~6個の水素原子がフッ素原子で置換されていてもよい炭素数5~15個の飽和又は不飽和の脂肪族炭化水素基、アラルキル基、アリールアルケニル基又は窒素原子、酸素原子及び硫黄原子からなる群から選ばれる1~2個のヘテロ原子を有するヘテロアリールアルキル基若しくはヘテロアリールアルケニル基(該アラルキル基、アリールアルケニル基若しくはヘテロアリールアルケニル基、でリールアルケニル基の現上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ

10

15

20

25

30

基、水酸基、ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、アミノ基又は低級アルキルアミノ基で置換されていてもよい。)を表し、そしてXはO又はNHを表す。但し、R'及びR²の中、少なくとも一つは、一以上のフッ素原子を有する。]で示される新規な含フッ素1,4-ジ置換ピペリジン誘導体又はその薬学的に許容されうる塩を提供するものである。

本発明により提供される上記式 [I] の化合物は、有効な選択的ムスカリンM₃受容体拮抗作用を有しており、かつ、優れた経口活性、作用持続性及び体内動態を示すことから、副作用が少なく安全であり、慢性閉塞性肺疾患、慢性気管支炎、喘息及び鼻炎等の呼吸器系疾患;過敏性腸症候群、痙性大腸炎、憩室炎及び消化器系平滑筋れん縮に伴う疼痛等の消化器疾患;神経性頻尿、神経因性膀胱、夜尿症、不安定膀胱、膀胱痙縮、慢性膀胱炎等の疾患における尿失禁及び頻尿等の泌尿器系疾患;及び乗り物酔いの治療又は予防のために極めて有用である。

以下に、明細書において用いられる用語の意味を記載し、本発明についてさらに詳細に説明する。

「アリール基(該アリール基の環上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ基、水酸基、ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、アミノ基又は低級アルキルアミノ基で置換されていてもよい。)」とは未置換又は置換された炭素数6~11個のアリール基を意味し、例えば未置換又は上記の置換基で置換されたフェニル基、ナフチル基等を挙げることができる。

「窒素原子、酸素原子及び硫黄原子からなる群から選ばれる1~2個のへ テロ原子を有するヘテロアリール基(該ヘテロアリール基の環上の任意の1 ~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ基、水 酸基、ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコ キシ基、アミノ基又は低級アルキルアミノ基で置換されていてもよい。)」 とは、例えば未置換又は上記の置換基で置換された2-ピリジル基、3-ピ リジル基、4-ピリジル基、2-チアゾリル基、4-チアゾリル基、2-チ エニル基、3-チエニル基、1-イミダゾリル基、2-イミダゾリル基、4

10

15

20

25

30

-イミダゾリル基、3-ピラゾリル基、4-ピラゾリル基、2-フリル基、3-フリル基、2-ピロリル基、3-ピロリル基、2-ピリミジニル基、4-ピリミジニル基、5-ピリミジニル基、2-ピラジニル基、3-ピリダジニル基、4-ピリダジニル基、2-ベンゾチエニル基又は2-インドリル基等を挙げることができる。

「1~4個の水素原子がフッ素原子で置換されていてもよい炭素数3~6 個のシクロアルキル基」としては、例えば、シクロプロピル基、シクロブチ ル基、シクロペンチル基、シクロヘキシル基、1-フルオロシクロプロピル 基、1-フルオロシクロブチル基、1-フルオロシクロペンチル基、1-フ ルオロシクロヘキシル基、2-フルオロシクロプロピル基、2-フルオロシ クロブチル基、2-フルオロシクロペンチル基、2-フルオロシクロヘキシ ル基、3-フルオロシクロブチル基、3-フルオロシクロペンチル基、3-フルオロシクロヘキシル基、4-フルオロシクロヘキシル基、2、2-ジフ ルオロシクロプロピル基、2,2-ジフルオロシクロブチル基、2,2-ジ フルオロシクロペンチル基、2、2-ジフルオロシクロヘキシル基、3、3 - ジフルオロシクロブチル基、3,3-ジフルオロシクロペンチル基、3, 3-ジフルオロシクロヘキシル基、4,4-ジフルオロシクロヘキシル基、 3. 3. 4. 4-テトラフルオロシクロペンチル基、3, 3, 4, 4-テト ラフルオロシクロヘキシル基、2.3-ジフルオロシクロブチル基、2. 3-ジフルオロシクロペンチル基、3,4-ジフルオロシクロペンチル基、 2. 3ージフルオロシクロヘキシル基、3. 4ージフルオロシクロヘキシル 基、2、2、3、3ーテトラフルオロシクロブチル基、2、2、3、3ーテ トラフルオロシクロペンチル基が挙げられる。

「任意の1~6個の水素原子がフッ素原子で置換されていてもよい炭素数5~15個の飽和又は不飽和の脂肪族炭化水素基」とは、炭素数5~15個の直鎖状若しくは分岐状であり、例えば、任意の1~6個の水素原子がフッ素原子で置換されていてもよい炭素数5~15個のアルキル基、アルケニル基、アルキニル基、シクロアルキリデンアルキル基、シクロアルキルアルキルアルキル基、シクロアルキルアルキルを置換されていてもよいシクロアルキルアルキル基立びシクロアルキルアルキニル基並び

15

20

25

30

にシクロアルケニル環上の任意の水素原子が低級アルキルで置換されていて もよいシクロアルケニルアルキル基及びシクロアルケニルアルケニル基等を 包含する。

そのような脂肪族炭化水素基としては、具体的に例えば、2-メチルブチ ル基、3-メチルブチル基、ペンチル基、ネオペンチル基、2-メチルペン チル基、3-メチルペンチル基、4-メチルペンチル基、ヘキシル基、2-メチルヘキシル基、3-メチルヘキシル基、4-メチルヘキシル基、5-メ チルヘキシル基、2,4-ジメチルペンチル基、2-エチルヘキシル基、 4. 5-ジメチルヘキシル基、4, 4-ジメチルペンチル基、ヘプチル基、 4-メチルヘプチル基、オクチル基、ノニル基、デシル基、ウンデシル基、 ドデシル基、トリデシル基、テトラデシル基、ペンタデシル基、3-フルオ ロメチルブチル基、1ーフルオロペンチル基、4ーフルオロペンチル基、 5-フルオロペンチル基、1,1-ジフルオロペンチル基、4.4-ジフル オロペンチル基、5, 5, 5ートリフルオロペンチル基、1, 1, 4, 4-テトラフルオロペンチル基、1、1、5、5、5-ペンタフルオロペンチル 甚、1-フルオロヘキシル基、5-フルオロヘキシル基、6-フルオロヘキ シル基、1、1-ジフルオロヘキシル基、5、5-ジフルオロヘキシル基、 6. 6. 6-トリフルオロヘキシル基、1, 1, 5, 5-テトラフルオロヘ キシル基、1、1、6、6、6ーペンタフルオロヘキシル基、1ーフルオ ロー4ーメチルペンチル基、2ーフルオロー4ーメチルペンチル基、3ーフ ルオロー4ーメチルペンチル基、4ーフルオロー4ーメチルペンチル基、 4-フルオロメチルペンチル基、1,1-ジフルオロー4-メチルペンチル 基、4-トリフルオロメチルペンチル基、5,5,5-トリフルオロー4-トリフルオロメチルペンチル基、1,1ージフルオロー4ートリフルオロメ チルペンチル基、1.1、5ートリフルオロー4ーメチルペンチル基、1ー フルオロー4ーメチルヘキシル基、4-フルオロー4ーメチルヘキシル基、 5 – フルオロー 4 – メチルヘキシル基、 6 – フルオロ – 4 – メチルヘキシル 甚、1. 1ージフルオロー4ーメチルヘキシル基、5, 5ージフルオロー 4-メチルヘキシル基、4-トリフルオロメチルヘキシル基、6.6.6-トリフルオロー4ーメチルヘキシル基、6.6.6ートリフルオロー4ート

10

15

20

25

30

リフルオロメチルヘキシル基、1, 1-ジフルオロー4ートリフルオロメチルヘキシル基、1, 1-ジフルオロー6, 6, 6-トリフルオロー4ーメチルヘキシル基等の未置換及びフッ素原子置換アルキル基;

3-メチル-2-ブテニル基、2-ペンテニル基、3-ペンテニル基、4-ペンテニル基、3-メチル-2-ペンテニル基、3-メチル-3-ペンテニ ル基、4-メチルー2-ペンテニル基、4-メチルー3-ペンテニル基、4 - メチル-4-ペンテニル基、2-ヘキセニル基、3-ヘキセニル基、4-ヘキセニル基、4-メチル-2-ヘキセニル基、4-メチル-3-ヘキセニ ル基、4-メチル-4-ヘキセニル基、5-メチル-2-ヘキセニル基、5 ーメチルー3-ヘキセニル基、5-メチルー4-ヘキセニル基、5-メチル - 2 - ヘプテニル基、5 - メチル-3 - ヘプテニル基、5 - メチル-4 - ヘ プテニル基、5-メチル-5-ヘプテニル基、3、4-ジメチル-2-ペン テニル基、3, 4-ジメチル-3-ペンテニル基、4, 5-ジメチル-2-ヘキセニル基、4,5-ジメチル-3-ヘキセニル基、4,5-ジメチル-4-ヘキセニル基、オクテニル基、ノネニル基、デセニル基、ウンデセニル 基、ドデセニル基、トリデセニル基、テトラデセニル基、ペンタデセニル 基、1ーフルオロー4ーメチルー3ーペンテニル基、2ーフルオロー4ーメ チルー3ーペンテニル基、(E)-4-フルオロメチルー3ーペンテニル 基、 (Z) ー 4 ーフルオロメチルー 3 ーペンテニル基、 1, 1 ージフルオ ロー4ーメチルー3ーペンテニル基、2.2ージフルオロー4ーメチルー 3-ペンテニル基、(E)-4-トリフルオロメチル-3-ペンテニル基、 (Z) - 4 - トリフルオロメチルー3 - ペンテニル基、(E) - 1, 1 - ジフルオロー4ートリフルオロメチルー3ーペンテニル基、(2)ー1,1ー ジフルオロー4ートリフルオロメチルー3ーペンテニル基、5,5,5ート リフルオロー4ートリフルオロメチルー3ーペンテニル基、1ーフルオロー 4ーメチルー2ーペンテニル基、4ーフルオロー4ーメチルー2ーペンテニ ル基、4-フルオロメチルー2ーペンテニル基、1、1-ジフルオロー4-メチルー2ーペンテニル基、4ートリフルオロメチルー2ーペンテニル基、 4-7ルオロー1. 1-3ブルオロー4-3チルー2ーペンテニル基、1. 1ージフルオロー4ートリフルオロメチルー2ーペンテニル基、1ーフルオ

15

20

25

30

1)

ロー4ーメチルー4ーペンテニル基、2ーフルオロー4ーメチルー4ーペン テニル基、3-フルオロー4ーメチルー4ーペンテニル基、4-フルオロメ チルー4ーペンテニル基、1、1ージフルオロー4ーメチルー4ーペンテニ ル基、2、2ージフルオロー4ーメチルー4ーペンテニル基、3、3ージフ ルオロー4ーメチルー4ーペンテニル基、4ートリフルオロメチルー4ーペ ンテニル基、1、1-ジフルオロー4ートリフルオロメチルー4ーペンテニ ル基、1、1、3、3ーテトラフルオロー4ーメチルー4ーペンテニル基、 1-フルオロー4ーメチルー3ーヘキセニル基、2-フルオロー4ーメチ ルー3-ヘキセニル基、4-フルオロメチルー3-ヘキセニル基、6-フル オロー4ーメチルー3ーヘキセニル基、4ートリフルオロメチルー3ーヘキ セニル基、1, 1ージフルオロー4ーメチルー3ーヘキセニル基、2, 2ー ジフルオロー4ーメチルー3ーヘキセニル基、4ートリフルオロメチルー 3-ヘキセニル基、5,5-ジフルオロメチル-3-ヘキセニル基、6. 6. 6ートリフルオロー4ーメチルー3ーヘキセニル基、1. 1ージフルオ ロー4ートリフルオロメチルー3ーヘキセニル基、1.1ージフルオロー 6. 6. 6-トリフルオロメチルー3-ヘキセニル基、6, 6, 6-トリフ ルオロー4ートリフルオロメチルー3ーへキセニル基等の未置換及びフッ素 原子置換アルケニル基:

2-ペンチニル基、3-ペンチニル基、4-ペンチニル基、4-メチル-2-ペンチニル基、オクチニル基、ノニニル基、デシニル基、ウンデシニル基、ドデシニル基、トリデシニル基、テトラデシニル基、ペンタデシニル基等及びこれらの任意の1~6個の水素原子がフッ素原子で置換されたアルキニル基:

シクロプロピルエチル基、シクロプロピルプロピル基、シクロプロピルブチル基、シクロプロピルペンチル基、シクロプロピルへキシル基、シクロプロピルへオシル基、シクロプロピルへオシル基、シクロブチルメチル基、シクロブチルエチル基、シクロブチルブロピル基、シクロブチルブチル基、シクロペンチルプロピル基、シクロペンチルブチル基、シクロペンチルブロピル基、シクロペンチルブチル基、シクロヘキシルブチル基、シクロヘキシルプロピル基、シクロヘキシルプロピル基、シクロヘキシルプロピル基、シクロヘキシルブチル

10

15

20

25

30

メチル基、シクロヘプチルエチル基、シクロヘプチルプロピル基、シクロヘ プチルブチル基、シクロオクチルメチル基、シクロオクチルエチル基、シク ロオクチルプロピル基、シクロオクチルブチル基、1-メチルシクロペンチ ルメチル基、2-メチルシクロペンチルメチル基、3-メチルシクロペンチ ルメチル基、1-エチルシクロペンチルメチル基、2-エチルシクロペンチ ルメチル基、3-エチルシクロペンチルメチル基、2-シクロペンチルエチ ル基、2-(1-メチルシクロペンチル) エチル基、2-(2-メチルシク ロペンチル) エチル基、2-(3-メチルシクロペンチル) エチル基、2-(1-エチルシクロペンチル) エチル基、2-(2-エチルシクロペンチ ル) エチル基、2-(3-エチルシクロペンチル) エチル基、1-メチルシ クロヘキシルメチル基、2-メチルシクロヘキシルメチル基、3-メチルシ クロヘキシルメチル基、4-メチルシクロヘキシルメチル基、1-エチルシ クロヘキシルメチル基、2-エチルシクロヘキシルメチル基、3-エチルシ クロヘキシルメチル基、4-エチルシクロヘキシルメチル基、シクロヘキシ ルエチル基、2-(1-メチルシクロヘキシル) エチル基、2-(2-メチルシクロヘキシル) エチル基、2-(3-メチルシクロヘキシル) エチル 基、2-(4-メチルシクロヘキシル)エチル基、2-(1-エチルシクロ ヘキシル) エチル基、2-(2-エチルシクロヘキシル) エチル基、2-(3-エチルシクロヘキシル) エチル基、2-(4-エチルシクロヘキシ ル) エチル基、1-メチルシクロヘプチルメチル基、2-メチルシクロヘブ チルメチル基、3-メチルシクロヘプチルメチル基、4-メチルシクロヘプ チルメチル基、1-エチルシクロヘプチルメチル基、2-エチルシクロヘプ チルメチル基、3-エチルシクロヘプチルメチル基、4-エチルシクロヘプ チルメチル基、2-シクロヘプチルエチル基、2-(1-メチルシクロヘプ チル) エチル基、2-(2-メチルシクロヘプチル) エチル基、2-(3-メチルシクロヘプチル) エチル基、2-(4-メチルシクロヘプチル) エチ ル基、2-(1-エチルシクロヘプチル)エチル基、2-(2-エチルシク ロヘプチル) エチル基、2-(3-エチルシクロヘプチル) エチル基、2-(4-エチルシクロヘプチル) エチル基、1-メチルシクロオクチルメチル 基、2-メチルシクロオクチルメチル基、3-メチルシクロオクチルメチル

10

15

25

30

۵

基、4-メチルシクロオクチルメチル基、5-メチルシクロオクチルメチル 基、1-エチルシクロオクチルメチル基、2-エチルシクロオクチルメチル 基、3-エチルシクロオクチルメチル基、4-エチルシクロオクチルメチル 基、5-エチルシクロオクチルメチル基、2-(1-メチルシクロオクチ ル) エチル基、2-(2-メチルシクロオクチル) エチル基、2-(3-メ チルシクロオクチル) エチル基、2- (4-メチルシクロオクチル) エチル 基、2-(5-メチルシクロオクチル)エチル基、2-(1-エチルシクロ オクチル) エチル基、2-(2-エチルシクロオクチル) エチル基、2-(3-エチルシクロオクチル) エチル基、2-(4-エチルシクロオクチ ル) エチル基、2-(5-エチルシクロオクチル) エチル基、1-フルオ ロー1ーシクロヘキシルメチル基、2ーフルオロシクロヘキシルメチル基、 3ーフルオロシクロヘキシルメチル基、4ーフルオロシクロヘキシルメチル 基、1、1-ジフルオロー1-シクロヘキシルメチル基、2、2-ジフルオ ロシクロヘキシルメチル基、3、3ージフルオロシクロヘキシルメチル基、 4. 4-ジフルオロシクロヘキシルメチル基、1-フルオロー1-シクロヘ プチルメチル基、2ーフルオロシクロヘプチルメチル基、3ーフルオロシク ロヘプチルメチル基、4ーフルオロシクロヘプチルメチル基、1. 1ージフ ルオロー1ーシクロヘプチルメチル基、2,2ージフルオロシクロヘプチル メチル基、3.3ージフルオロシクロヘプチルメチル基、4.4ージフルオ ロシクロヘプチルメチル基、1-フルオロ-1-(3-メチルシクロヘキシ 20 ル) メチル基、2ーフルオロー3ーメチルシクロヘキシルメチル基、3ーフ ルオロー3ーメチルシクロヘキシルメチル基、4ーフルオロー3ーメチルシ クロヘキシルメチル基、1,1-ジフルオロー1ー(3-メチルシクロヘキ シル) メチル基、2, 2-ジフルオロー3-メチルシクロヘキシルメチル 基、3ートリフルオロメチルシクロヘキシルメチル基、4. 4ージフルオ ロー3-メチルシクロヘキシルメチル基、1-フルオロー2-シクロペンチ ルエチル基、2-(2-フルオロシクロペンチル)エチル基、2-(3-フ ルオロシクロペンチル) エチル基、1、1-ジフルオロー2-シクロペンチ ルエチル基、2-(2,2-ジフルオロシクロペンチル)エチル基、2-(3, 3ージフルオロシクロペンチル) エチル基、1, 1ージフルオロー

20

25

30

Á.

2- (2, 2-ジフルオロシクロペンチル) エチル基、1, 1-ジフルオ ロー2ー(3, 3ージフルオロシクロペンチル)エチル基等のシクロアルキ ル環上の任意の水素原子が低級アルキルで置換されていてもよい未置換及び フッ素原子置換シクロアルキルアルキル基:

シクロプロピリデンエチル基、シクロプロピリデンプロピル基、シクロプロ 5 ピリデンブチル基、シクロプロピリデンペンチル基、シクロブチリデンエチ ル基、シクロブチリデンプロピル基、シクロブチリデンブチル基、シクロブ チリデンペンチル基、シクロペンチリデンエチル基、シクロペンチリデンプ ロピル基、シクロペンチリデンブチル基、シクロペンチリデンペンチル基、

シクロヘキシリデンエチル基、シクロヘキシリデンプロピル基、シクロヘキ 10 シリデンプチル基、シクロヘキシリデンペンチル基、シクロヘプチリデンエ チル基、シクロヘプチリデンプロピル基、シクロヘプチリデンブチル基、シ クロヘプチリデンペンチル基、シクロオクチリデンエチル基、シクロオクチ リデンプロピル基、シクロオクチリデンブチル基、シクロオクチリデンペン チル基等及びこれらの任意の $1 \sim 6$ 個の水素原子がフッ原子で置換されたシ クロアルキリデンアルキル基:

シクロアルキル環上の任意の水素原子が低級アルキル基で置換されていても よいシクロプロピルプロペニル基、シクロプロピルブテニル基、シクロプロ ピルペンテニル基、シクロプロピルヘキセニル基、シクロプロピルヘプテニ ル基、シクロブチルプロペニル基、シクロブチルブテニル基、シクロブチル ペンテニル基、シクロペンチルプロペニル基、シクロペンチルブテニル基、 シクロペンチルペンテニル基、シクロヘキシルプロペニル基、シクロヘキシ ルブテニル基、シクロヘキシルペンテニル基、シクロヘプチルプロペニル 基、シクロオクチルプロペニル基等及びこれらの任意の1~6個の水素原子 がフッ原子で置換されたシクロアルキルアルケニル基:

シクロアルキル環上の任意の水素原子が低級アルキル基で置換されていても よいシクロプロピルプロピニル基、シクロプロピルブチニル基、シクロプロ ピルペンチニル基、シクロプロピルヘキシニル基、シクロプロピルヘプチニ ル基、シクロブチルプロピニル基、シクロブチルブチニル基、シクロブチル ペンチニル基、シクロペンチルプロピニル基、シクロペンチルブチニル基、

15

20

25

٤

シクロペンチルペンチニル基、シクロヘキシルプロピニル基、シクロヘキシルブチニル基、シクロヘキシルペンチニル基等及びこれらの任意の1~6個の水素原子がフッ原子で置換されたシクロアルキルアルキニル基;

シクロプロペニルエチル基、シクロプロペニルプロピル基、シクロプロペニ ルブチル基、シクロプロペニルペンチル基、シクロプロペニルヘキシル基、 シクロプロペニルヘプチル基、シクロブテニルメチル基、シクロブテニルエ チル基、シクロブテニルプロピル基、シクロペンテニルメチル基、シクロへ キセニルメチル基、シクロヘキセニルエチル基、シクロヘプテニルメチル 基、シクロヘプテニルエチル基、シクロオクテニルメチル基、シクロオクテ ニルエチル基、(1-メチル-2-シクロペンテニル)メチル基、(1-メ チル-3-シクロペンテニル) メチル基、(2-メチル-1-シクロペンテ ニル) メチル基、(2-メチル-2-シクロペンテニル) メチル基、(2-メチルー3-シクロペンテニル) メチル基、(5-メチルー2-シクロペン テニル) メチル基、(5-メチル-1-シクロペンテニル)メチル基、(3 -メチル-1-シクロペンテニル) メチル基、(3-メチル-2-シクロペ ンテニル) メチル基、(3-メチル-3-シクロペンテニル) メチル基、 (4-x+n-2-2)ロペンテニル) メチル基、(4-x+n-1-2)ロペンテニル) メチル基、(1-メチル-2-シクロヘキセニル) メチル 基、(1-メチル-3-シクロヘキセニル)メチル基、(2-メチル-1-シクロヘキセニル) メチル基、(2-メチル-2-シクロヘキセニル) メチ ル基、(2 - メチル - 3 - シクロヘキセニル)メチル基、(6 - メチル - 3 - シクロヘキセニル) メチル基、(6-メチル-2-シクロヘキセニル) メ チル基、(6-メチル-1-シクロヘキセニル)メチル基、(3-メチル-1-シクロヘキセニル)メチル基、(3-メチル-2-シクロヘキセニル) メチル基、(3-メチル-3-シクロヘキセニル)メチル基、(5-メチル -3-シクロヘキセニル)メチル基、(5-メチル-2-シクロヘキセニ ル) メチル基、(5-メチル-1-シクロヘキセニル)メチル基、(4-メ チル-1-シクロヘキセニル)メチル基、(4-メチル-2-シクロヘキセ ニル) メチル基、(4-メチル-3-シクロヘキセニル) メチル基、(1-メチルー2-シクロヘプテニル)メチル基、(1-メチルー3-シクロヘプ

10

15

20

25

30

テニル) メチル基、 (1-メチル-4-シクロヘプテニル) メチル基、 (2 -メチル-1-シクロヘプテニル) メチル甚、(2-メチル-2-シクロヘ プテニル) メチル基、(2-メチル-3-シクロヘプテニル) メチル基、 (2-メチル-4-シクロヘプテニル) メチル基、 (7-メチル-3-シク ロヘプテニル) メチル基、(7-メチル-2-シクロヘプテニル) メチル 基、(7-メチル-1-シクロヘプテニル)メチル基、(3-メチル-1-シクロヘプテニル) メチル基、(3-メチル-2-シクロヘプテニル) メチ ル基、(3-メチル-3-シクロヘプテニル)メチル基、(3-メチル-4 -シクロヘプテニル)メチル基、(6-メチル-3-シクロヘプテニル)メ チル基、(6-メチル-2-シクロヘプテニル)メチル基、(6-メチル-1-シクロヘプテニル) メチル基、(4-メチル-1-シクロヘプテニル) メチル基、(4-メチル-2-シクロヘプテニル)メチル基、(4-メチル - 3 - シクロヘプテニル) メチル基、 (4 - メチル- 4 - シクロヘプテニ ル) メチル基、(5-メチル-3-シクロヘプテニル) メチル基、 (5-メ チルー2-シクロヘプテニル) メチル基、(5-メチルー1-シクロヘプテ ニル) メチル基、(1-メチル-2-シクロオクテニル) メチル基、(1-メチルー3-シクロオクテニル) メチル基、(1-メチルー4-シクロオク テニル) メチル基、(2-メチル-1-シクロオクテニル) メチル基、(2 ーメチルー2-シクロオクテニル) メチル基、 (2-メチル-3-シクロオ クテニル) メチル基、(2-メチル-4-シクロオクテニル) メチル基、 (8-メチル-4-シクロオクテニル) メチル基、 (8-メチル-3-シク ロオクテニル) メチル基、(8-メチル-2-シクロオクテニル) メチル 基、(8-メチル-1-シクロオクテニル)メチル基、(3-メチル-1-シクロオクテニル) メチル基、(3-メチル-2-シクロオクテニル) メチ ル基、(3-メチル-3-シクロオクテニル)メチル基、(3-メチル-4 ーシクロオクテニル)メチル基、(7-メチル-4-シクロオクテニル)メ チル基、(7-メチル-3-シクロオクテニル)メチル基、(7-メチル-2-シクロオクテニル) メチル基、 (7-メチル-1-シクロオクテニル) メチル基、(4-メチル-1-シクロオクテニル)メチル基、(4-メチル - 2 - シクロオクテニル)メチル基、(4 - メチル- 3 - シクロオクテニ

10

15

20

25

30

ル基等が挙げられる。

ル)メチル基、 (4-メチル-4-シクロオクテニル)メチル基、 (6-メチル-4-シクロオクテニル)メチル基、 (6-メチル-2-シクロオクテニル)メチル基、 (5-メチル-1-シクロオクテニル)メチル基、 (5-メチル-1-シクロオクテニル)メチル基、 (5-メチル-2-シクロオクテニル)メチル基、 (5-メチル-2-シクロオクテニル)メチル基、 (5-メチル-4-シクロオクテニル)メチル基等及びこれらの任意の1~6個の水素原子がフッ原子で置換されたシクロアルケニル環上の任意の水素原子が低級アルキルで置換されていてもよいシクロアルケニルアルキル基:シクロアルケニル環上の任意の水素原子が低級アルキル基で置換されていてもよいシクロプロペニルプロペニル基、シクロプロペニルブテニル基、シクロプロペニルブテニル基、シクロプロペニルでエループロペニルでデニルを、シクロプロペニルでデニルを、シクロプロペニルでデニルを、シクロプロペニルでデニルを、シクロプロペニルでデニルを、シクロブテニルを、シクロプロペニルでデニルを、シクロブテニルを、シクロブテニルを、シクロブテニルを、シクロブテニルを、シクロブロペニルを、シクロブテニルを、シクロブテニルを、シクロブロペニルを、シクロブテニルを、シクロブテニルを、シクロブロペニルを、シクロブテニルを等及びこれらの任意の1~6個の水素原子がフッ素原子で置換されたシクロアルケニルアルケニ

「アラルキル基(該アラルキル基の環上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ基、水酸基、ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、アミノ基又は低級アルキルアミノ基で置換されていてもよい。)」とは未置換又は置換された炭素数7~12個のアラルキル基を意味し、例えば未置換又は上記の置換基で置換されたベンジル基、フェネチル基、フェニルプロピル基、ナフチルメチル基等を挙げることができる。

「アリールアルケニル基(該アリールアルケニル基の環上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ基、水酸基、ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、アミノ基又は低級アルキルアミノ基で置換されていてもよい。)」とは未置換又は置換された炭素数8~12個のアリールアルケニル基を意味し、例えば未置換又は上記の置換基で置換されたフェニルプロペニル基、ナフチルプロペニル基等を挙げることができる。

10

15

20

25

30

「窒素原子、酸素原子及び硫黄原子からなる群から選ばれる1~2個のへ テロ原子を有するヘテロアリールアルキル基(該ヘテロアリールアルキル基 の環上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル 基、シアノ基、水酸基、ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン 原子、低級アルコキシ基、アミノ基又は低級アルキルアミノ基で置換されて いてもよい。)」とは、例えば未置換又は上記の置換基で置換された2-ピ リジルメチル基、3-ピリジルメチル基、4-ピリジルメチル基、2-チア ゾリルメチル基、4ーチアゾリルメチル基、2ーチエニルメチル基、3ーチ エニルメチル基、1-イミダゾリルメチル基、2-イミダゾリルメチル基、 2-イミダゾリルメチル基、4-イミダリルメチル基、3-ピラゾリルメチ ル基、4-ピラゾリルメチル基、2-フリルメチル基、3-フリルメチル 基、2-ピロリルメチル基、3-ピロリルメチル基、2-ピリミジニルメチ ル基、4-ピリミジニルメチル基、5-ピリミジニルメチル基、ピラジニル メチル基、3-ピリダジニルメチル基、4-ピリダジニルメチル基、3-キ ノリルメチル基、4ーキノリルメチル基、5ーキノリルメチル基、6ーキノ リルメチル基、7-キノリルメチル基、8-キノリルメチル基、1-イソキ ノリルメチル基、3-イソキノリルメチル基、4-イソキノリルメチル基、 5-イソキノリルメチル基、6-イソキノリルメチル基、7-イソキノリル メチル基、8-イソキノリルメチル基、2-ベンゾチエニルメチル基、3-ベンゾチエニルメチル基、4-ベンゾチエニルメチル基、5-ベンゾチエニ ルメチル基、6-ベンゾチエニルメチル基、7-ベンソチエニルメチル基、 2-インドリルメチル基、3-インドリルメチル基、4-インドリルメチル 基、5-インドリルメチル基、6-インドリルメチル基、7-インドリルメ チル基、2-ベンズイミダゾリルメチル基、4-ベンズイミダゾリルメチル 基、5-ベンズイミダゾリルメチル基、2-ベンゾチアゾリルメチル基、4 -ベンゾチアゾリルメチル基、5-ベンゾチアゾリルメチル基、6-ベンゾ チアゾリルメチル基、7-ベンゾチアゾリルメチル基、2-ベンゾオキサゾ リルメチル基、4-ベンゾオキサゾリルメチル基、5-ベンゾオキサゾリル メチル基、6-ベンゾオキサゾリルメチル基、7-ベンゾオキサゾリルメチ ル基、2-ベンゾフラニルメチル基、3-ベンゾフラニルメチル基、4-ベ

10

15

20

25

30

ンゾフラニルメチル基、5-ベンゾフラニルメチル基、6-ベンゾフラニル メチル基、7-ベンゾフラニルメチル基、2-ピリジルエチル基、2-ピリ ジルプロピル基、3-ピリジルエチル基、4-ピリジルエチル基、2-チア ゾリルエチル基、2-チエニルエチル基、3-チエニルエチル基、1-イミ ダゾリルエチル基、2-イミダゾリルエチル基、3-ピラゾリルエチル基、 4-ピラゾリルエチル基、2-フリルエチル基、3-フリルエチル基、2-ピロリルエチル基、3-ピロリルエチル基、2-ピリミジニルエチル基、4 – ピリミジニルエチル基、5 – ピリミジニルエチル基、ピラジニルエチル 甚、3-ピリダジニルエチル基、4-ピリダジニルエチル基、2-キニジル エチル基、2-ベンゾチエニルエチル基、3-ベンゾチエニルエチル基、4 - ベンゾチエニルエチル基、5 - ベンゾチエニルエチル基、6 - ベンゾチエ ニルエチル基、7-ベンゾチエニルエチル基、2-インドリルエチル基、3 - インドリルエチル基、4-インドリルエチル基、5-インドリルエチル 基、6-インドリルエチル基、7-インドリルエチル基、2-ベンズイミダ ソリルエチル基、4-ベンズイミダゾリルエチル基、5-ベンズイミダゾリ ルエチル基、2-ベンゾチアゾリルエチル基、4-ベンゾチアゾリルエチル 基、5-ベンゾチアゾリルエチル基、6-ベンゾチアゾリルエチル基、7-ベンゾチアゾリルエチル甚、2-ベンゾオキサゾリルエチル基、4-ベンゾ オキサゾリルエチル基、5-ペンゾオキサゾリルエチル基、6-ベンゾオキ サゾリルエチル基、7-ベンゾオキサゾリルエチル基、2-ベンゾフラニル エチル基、3-ベンゾフラニルエチル基、4-ベンゾフラニルエチル基、5 ベンソフラニルエチル基、6-ベンソフラニルエチル基、7-ベンソフラ ニルエチル基等を挙げることができる。

「窒素原子、酸素原子及び硫黄原子からなる群から選ばれる1~2個のへ テロ原子を有するヘテロアリールアルケニル基(該ヘテロアリールアルケニ ル基の環上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメ チル基、シアノ基、水酸基、ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロ ゲン原子、低級アルコキシ基、アミノ基又は低級アルキルアミノ基で置換さ れていてもよい。)」とは、例えば未置換又は上記の置換基で置換された2 ーピリジルプロペニル基、3ーピリジルプロペニル基、4ーピリジルプロペ

15

20

25

30

ニル基、2-チアゾリルプロペニル基、2-チェニルプロペニル基、3-チェニルプロペニル基、1-イミダゾリルブテニル基、2-イミダゾリルプロペニル基、2-イミダゾリルプロペニル基、2-フリルプロペニル基、2-ピロリルプロペニル基、3-ピロリルプロペニル基、2-ピリミジニルプロペニル基、4-ピリミジニルプロペニル基、5-ピリミジニルプロペニル基、ピラジニルプロペニル基、3-ピリダジニルプロペニル基、4-ピリダジニルプロペニル基、2-キニジルプロペニル基、2-ベンゾチェニルプロペニル基又は2-インドリルプロペニル基等を挙げることができる。

「ハロゲン原子」なる語はフッ素原子、塩素原子、臭素原子及びヨウ素原子を包含する。

「低級アルキル基」なる語は、炭素数 1~6 個の直鎖状又は分岐状のアルキル基を示し、例えば、メチル基、エチル基、プロピル基、イソプロピル基、ブチル基、イソブチル基、sec-ブチル基、t-ブチル基、ペンチル基、イソペンチル基、ヘキシル基、イソヘキシル基等が挙げられる。

「低級アルコキシ基」とは、炭素数1ないし6個の直鎖状又は分岐状のアルコキシ基を示し、例えばメトキシ基、エトキシ基、プロポキシ基、イソプロポキシ基、ブトキシ基、sec-ブトキシ基、イソブトキシ基、t-ブトキシ基、ペンチルオキシ基、イソペンチルオキシ基、ヘキシルオキシ基又はイソヘキシルオキシ基等が挙げられる。

「低級アルコキシカルボニル基」とは、炭素数1ないし7個の直鎖状又は分岐状のアルコキシカルボニル基を示し、例えばメトキシカルボニル基、エトキシカルボニル基、プロポキシカルボニル基、イソプロポキシカルボニル基、ブトキシカルボニル基、sec-ブトキシカルボニル基、イソブトキシカルボニル基、t-ブトキシカルボニル基、ペンチルオキシカルボニル基、イソペンチルオキシカルボニル基、ヘキシルオキシカルボニル基又はイソヘキシルオキシカルボニル基等が挙げられる。

「アラルキルオキシカルボニル基」とは、炭素数7~10個のアラルキルオキシカルボニル基を意味し、例えば、ベンジルオキシカルボニル基、フェネチルオキシカルボニル基等を挙げることができる。

10

15

20

25

「低級アルキルアミノ基」なる語は炭素数1~6個の直鎖状又は分岐状のアルキルアミノ基を示し、例えば、メチルアミノ基、エチルアミノ基、プロピルアミノ基、イソプロピルアミノ基、ブチルアミノ基、secーブチルアミノ基、tーブチルアミノ基、ペンチルアミノ基、イソペンチルアミノ基、ヘキシルアミノ基、イソヘキシルアミノ基、ジメチルアミノ基、ジェチルアミノ基、ジェチルアミノ基、ジェチルアミノ基、ジェチルアミノ基、ジェチルアミノ基、ジェチルアミノ基、ジェチルアミノ基、ジェチルアミノ基等が挙げられる。

「保護された水酸基」とは、アセチル基等のアシル基、トリメチルシリル 基、 t - ブチルジメチルシリル基等のアルキルシリル基、ベンジル基、トリ チル基等のアラルキル基、メトキシメチル基等のエーテル基、イソプロピリ デンケタール等のアルキリデンケタール形で保護された水酸基を意味する。

「保護されたオキソ基」とは、エチレンケタール、トリメチレンケタール、ジメチルケタール等のアセタール、ケタールの形で保護されたオキソ基を意味する。

「保護されたアミノ基又は低級アルキルアミノ基」とは、例えばベンジル基、p-メトキシベンジル基、p-ニトロベンジル基、ベンズヒドリル基、トリチル基等のアラルキル基;例えばホルミル基、アセチル基、プロピオニル基等の低級アルカノイル基;例えばフェニルアセチル基、フェノキシアセチル基等のアリールアルカノイル基;例えばメトキシカルボニル基、エトキシカルボニル基、イソブトキシカルボニル基、t-ブトキシカルボニル基等の低級アルコキシカルボニル基;例えばペンジルオキシカルボニル基、p-ニトロベンジルオキシカルボニル基等のアラルキルオキシカルボニル基;例えばトリメチルシリル基等のアラルキルオキシカルボニル基;例えばトリメチルシリル基等の任級アルキルシリル基等で保護されたアミノ基又は低級アルキルアミノ基を意味し、特に、t-ブトキシカルボニル基、ベンジルオキシカルボニル基で保護されたアミノ基又は低級アルキルアミノ基又は低級アルキルアミノ基が好ましい。

また脱保護とは有機化学の分野で通常用いられる、例えば加水分解、加水素分解等による保護基の除去を意味する。

10

15

20

25

前記一般式[I]において、

- (1) Arはアリール基又は窒素原子、酸素原子及び硫黄原子からなる群から選ばれる1~2個のヘテロ原子を有するヘテロアリール基(該アリール基及びヘテロアリール基の環上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ基、水酸基、ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、アミノ基又は低級アルキルアミノ基で置換されていてもよい。)を表し、中でも未置換又は上記置換基で置換されたフェニル基が好ましい。
- (2) R'は1~4個のフッ素原子を環上に有していてもよい炭素数3~6個のシクロアルキル基を表し、中でもシクロブチル基、シクロペンチル基、シクロヘキシル基、2ーフルオロシクロブチル基、3ーフルオロシクロブチル基、2・2ージフルオロシクロベンチル基、3・3ージフルオロシクロベンチル基、2・2ージフルオロシクロペンチル基、3・3ージフルオロシクロペンチル基、2・2・3・3・3ーテトラフルオロシクロペンチル基、3・3・4・4ーテトラフルオロシクロペンチル基、2・2・3・3・4・4ーテトラフルオロシクロペンチル基、2・2ージフルオロシクロヘキシル基、4ーフルオロシクロヘキシル基、2・2ージフルオロシクロヘキシル基、3・3ージフルオロシクロヘキシル基、4ーフルオロシクロヘキシル基及び4・4ージフルオロシクロヘキシル基が好ましい。
- 更には2-フルオロシクロブチル基、3-フルオロシクロブチル基、2、2ージフルオロシクロブチル基、3.3ージフルオロシクロブチル基、2ーフルオロシクロペンチル基、3.3ージフルオロシクロペンチル基、2.2.3、3ーテトラフルオロシクロペンチル基、3.3ーテトラフルオロシクロペンチル基、3.3.4.4ーテトラフルオロシクロペンチル基、2.2ージフルオロシクロペンチル基、2.2ージフルオロシクロペキシル基、4ーフルオロシクロペキシル基、2.2ージフルオロシクロペキシル基、3.3ージフルオロシクロペキシル基及び4.4ージフルオロシクロペキシル基が好ましく、特に3.3ージフルオロシクロペンチル基が好ましく。特に3.3ージフルオロシクロペンチル基が好ましい。
- 30 (3) XはO又はNHを表し、中でもNHが好ましい。

(4) R²は任意の1~6個の水素原子がフッ素原子で置換されていてもよい炭素数5~15個の飽和又は不飽和の脂肪族炭化水素基、アラルキル基、アリールアルケニル基又は窒素原子、酸素原子及び硫黄原子からなる群から選ばれる1~2個のヘテロ原子を有するヘテロアリールアルキル基若しくはヘテロアリールアルケニル基(該アラルキル基、アリールアルケニル基、ヘテロアリールアルケニル基及びヘテロアリールアルケニル基の環上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ基、水酸基、ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、アミノ基又は低級アルキルアミノ基で置換されていてもよい。)を表し、中でも、任意の1~6個の水素原子がフッ素原子で置換されていてもよい下記式[II]

15

20

25

30

10

[式中、Qはメチレン基、エチレン基、トリメチレン基又はテトラメチレン基等を表し、R®及びR°はそれぞれ水素原子を表すか、又はR®及びR°は一緒になって単結合を形成し、R®、R®及びR®は同一若しくは相異なり、それぞれ、水素原子、低級アルキル基又は炭素数3~8個のシクロアルキル基若しくはシクロアルケニル基を表すか、或いはR®とR®又はR®とR®は、それぞれ一緒になって炭素数3~8個のシクロアルキル基又はシクロアルケニル基を形成する。]で示される基、ベンジル基、フェネチル基、フェニルプロペニル基又は2ーピリジルメチル基、2ーピリジルメチル基、2ーピリジルメチル基、4ーピリジルメチル基、2ーピリジルメチル基、3ーチエニルメチル基、2ーデーリルメチル基、3ーチエニルメチル基、1ーイミダゾリルメチル基、2ーイミダゾリルメチル基、4ーイミダゾリルメチル基、3ーナエニルリルメチル基、3ーピロリルメチル基、3ープリルメチル基、2ーピロリルメチル基、3ープリルメチル基、2ーピロリルメチル基、3ープリルメチル基、2ーピロリルメチル基、3ープリルメチル基、1ーイミダゾリルメチル基、3ープリルメチル基、4ーイミダゾリルメチル基、3ーピロリルメチル基、3ープリルメチル基、2ーピロリルメチル基、3ープロペニル基及びヘテロアリールアルキル基の環上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメ

10

15

20

25

30

チル基、シアノ基、水酸基、ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、アミノ基又は低級アルキルアミノ基で置換されていてもよい。) が好適である。

更には、2-チエニルメチル基、3-チエニルメチル基、2-フリルメチル基、3-フリルメチル基、2-ピリジルメチル基又はベンジル基(但し、該チエニルメチル基、フリルメチル基、ピリジルメチル基及びベンジル基の環上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ基、水酸基、ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、アミノ基、低級アルキルアミノ基又は低級アルコキシ基で置換されていてもよい。)が好ましく、特に6-アミノピリジン-2-イルメチル基が好ましい。

本発明の化合物は、その置換の態様によって、光学異性体、ジアステレオ 異性体、幾何異性体等の立体異性体が存在することがあるが、本発明の化合物はこれら全ての立体異性体及びそれらの混合物をも包含する。

また、本発明の化合物は、薬学的に許容しうる塩の形態で存在することができ、そのような塩としては、、例えば塩酸塩、硫酸塩、硝酸塩、リン酸塩、過塩素酸塩等の無機酸塩;例えばマレイン酸塩、フマル酸塩、コハク酸塩、酒石酸塩、クエン酸塩、アスコルビン酸塩等の有機カルボン酸塩;例えばメタンスルホン酸塩、イセチオン酸塩、ベンゼンスルホン酸塩、p-トルエンスルホン酸塩等の有機スルホン酸塩等が挙げられる。

本発明の前記一般式[I]の化合物は、例えば、

(a) 一般式 [III]

「式中、Arはアリール基又は窒素原子、酸素原子及び硫黄原子からなる群から選ばれる1~2個のヘテロ原子を有するヘテロアリール基(該アリール基及びヘテロアリール基の環上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ基、水酸基、ニトロ基、低級アルコキシ

カルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、アミノ基又は低級アルキルアミノ基で置換されていてもよい。)を表し、R¹⁰は任意の1~4個の水素原子がフッ素原子で置換されていてもよい炭素数3~6個のシクロアルキル基又は未保護若しくは保護された1~2個の水酸基若しくはオキソ基を有する炭素数3~6個のシクロアルキル基を表す。〕で示されるカルボン酸又はその反応性誘導体を、一般式[IV]

$$HX \longrightarrow N \longrightarrow R^{20}$$
 [IV]

「式中、R²のは任意の1~6個の水素原子がフッ素原子で置換されていても よい炭素数5~15個の飽和若しくは不飽和の脂肪族炭化水素基、未保護若 しくは保護された1~2個の水酸基又はオキソ基を有する炭素数5~15個 の飽和若しくは不飽和の脂肪族炭化水素基、アラルキル基、アリールアルケ ニル基又は窒素原子、酸素原子及び硫黄原子からなる群から選ばれる1~2 個のヘテロ原子を有するヘテロアリールアルキル基若しくはヘテロアリール アルケニル基 (但し、該アラルキル基、アリールアルケニル基、ヘテロア リールアルキル基及びヘテロアリールアルケニル基の環上の任意の1~3個 の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ基、水酸基、 ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ 基、未保護若しくは保護されたアミノ基、未保護若しくは保護された低級ア ルキルアミノ基又はアラルキルオキシカルボニル基で置換されていてもよ い。) を表し、そしてXはNH又はOを表す。] で示される化合物又はその 塩と反応させ、R'º又はR2ºが未保護若しくは保護された1~2個の水酸基 又はオキソ基を有する場合は、そのまま又は保護基を除去した後、該水酸基 又はオキソ基をフッ素原子に変換し、保護されたアミノ基又は保護された低 級アルキルアミノ基を有する場合は保護基の除去を行い、低級アルコキシカ ルボニル基又はアラルキルオキシカルボニル基を有する場合はアミノ基への 変換反応を行い、或いは

(b) 上記一般式 [III] のカルボン酸又はその反応性誘導体を一般式 [V]

25

10

15

20

10

15

20

25

30

$$HX - N - E \quad [V]$$

[式中、Eはイミノ基の保護基を表し、Xは前記の意味を有する]で示される化合物又はその塩と反応させ、得られる一般式 [V1]

$$HO \xrightarrow{\text{R}_{10}} V - X - V - E \qquad [VI]$$

[式中、Ar、R¹⁰、X及びEは前記の意味を有する]で示される化合物を 脱保護した後、一般式 [VII]

$$R^{20}$$
-L [VIII]

[式中、Lは脱離基を表し、そしてR²⁰は前記の意味を有する] で示される 化合物と、必要に応じて塩基の存在下に反応させ、そして必要に応じて上記 と同様のR¹⁰及びR²⁰の変換反応を行い、或いは

(c) 上記一般式 [VI] の化合物を脱保護した後、一般式 [VIII]

$$R^{21}$$
-CHO [VIII]

[式中、R²¹は任意の1~6個の水素原子がフッ素原子で置換されていてもよい炭素数4~14個の飽和若しくは不飽和の脂肪族炭化水素基、未保護若しくは保護された1~2個の水酸基又はオキソ基を有する炭素数4~14個の飽和若しくは不飽和の脂肪族炭化水素基、アリール基、アラルキル基、アリールアルケニル基又は窒素原子、酸素原子及び硫黄原子からなる群から選ばれる1~2個のヘテロ原子を有するヘテロアリール基、ヘテロアリールアルケニル基、アリール基、アリール基、アリールアルケニル基(但し、該アリール基、アラルキル基、アリールアルケニル基、ヘテロアリール基、ヘテロアリールアルキル基及びヘテロアリールアルケニル基の環上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ基、水酸基、ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、未保護若しくは保護されたアミノ基、未保護若しくは保護されたのアルキルアミノ

10

15

20

25

30

基又はアラルキルオキシカルボニル基で置換されていてもよい。)を表す。]で示される化合物と還元的アルキル化反応に付し、そして必要に応じて上記と同様のR¹⁰及びR²¹の変換反応を行うことにより製造することが出来る。

また、上記式 [VII] において、Lによって表される「脱離基」としては、例えば塩素原子、臭素原子、ヨウ素原子等のハロゲン原子;メタンスルホニルオキシ基等のアルキルスルホニルオキシ基; p-トルエンスルホニルオキシ基等のアリールスルホニルオキシ基等が挙げられる。

さらに、上記式 [V] 及び [VI] において、Eによって表される「イミノ基の保護基」とは前記のアミノ基の保護基と同様の保護基を意味する。

前記製造工程(a)において、式[III]のカルボン酸は、式[IV]の化合物又はその塩と適当な縮合剤の存在下で反応せしめられ、下記一般式[IX]

[式中、Ar、R¹⁰、X及びR²⁰は前記の意味を有する]で表されるカップリング化合物が得られる。

上記縮合反応において、出発原料として使用される式 [I I I] のカルボン酸は、例えば、後述の参考例に記載した方法等により製造することができる。

また、上記反応において用いられる縮合剤としては、カルボキシル基と水酸基又はアミノ基との間の縮合反応に際して有機合成化学分野で通常用いられる、例えば、N, N' – ジシクロヘキシルカルボジイミド、1 – エチルー3 – (3 – ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド、ジフェニルホスホリルアジド、ジピリジルジスルフィドートリフェニルホスフィン等が挙げられ、特に1 – エチルー3 – (3 – ジメチルアミノプロピル)カルボジイミドが好ましい。

これら縮合剤の使用量は厳密に制限されるものではないが、通常、式

10

15

20

25

30

[III]の化合物 1 モルに対して 1 ~ 5 当量、特に 1 ~ 2 当量の範囲内とすることができる。

また、上記縮合反応は、必要に応じて、塩基の存在下で実施することができ、用いうる塩基としては、例えば、トリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン等の脂肪族3級アミン;ピリジン、4~ジメチルアミノピリジン、キノリン等の芳香族アミンが挙げられ、特に4~ジメチルアミノピリジンが好ましい。

該縮合反応は不活性な溶媒中で行うことが好ましく、そのような不活性有機溶媒としては、例えば、ジエチルエーテル、テトラヒドロフラン、N. N ージメチルホルムアミド、ジオキサン、ベンゼン、トルエン、クロロベンゼン、塩化メチレン、クロロホルム、四塩化炭素、ジクロロエタン、トリクロロエチレン、又は上記溶媒の混合物が挙げられ、特にジエチルエーテル、テトラヒドロフラン、N. N ージメチルホルムアミド、ジオキサンが好ましい。

反応温度は、通常、-70 Cないし反応に用いる溶媒の沸点、好ましくは -20 C ~ 100 C の範囲内とすることができ、かかる条件下に反応は、通常、5 分間 ~ 7 日間、好ましくは10 分間 ~ 24 時間で終了せしめることができる。

式 [III] の化合物に対する式 [IV] の化合物又はその塩の使用割合は、厳密に制限されるものではなく、これら化合物の種類や用いる反応条件等に応じて変えることができるが、通常、式 [III] の化合物1モルあたり式 [IV] の化合物又はその塩は、1~5モル、好ましくは1~2モルの範囲内で使用することができる。

また、前記式 [IX] のカップリング化合物は、式 [III] のカルボン酸を反応性誘導体に変換した後、式 [IV] の化合物又はその塩と縮合させることによっても得ることができる。

式 [III] のカルボン酸の反応性誘導体としては、例えばエステル化又はアミド化反応においてカルボキシル基の活性化のために有機合成化学の分野で通常使用される、例えば混合酸無水物、活性エステル、活性アミド等が挙げられる。

15

20

25

30

式[III]のカルボン酸の混合酸無水物は、式[III]のカルボン酸を常法に従って、例えばクロロ炭酸エチル等のクロロ炭酸アルキル;アセチルクロリド、ピバロイルクロリド等の脂肪族カルボン酸クロリド等と反応させることにより得ることができ、活性エステルは、式[III]のカルボン酸を常法に従って、例えばN、N'ージシクロヘキシルカルボジイミド、1ーエチルー3ー(3ージメチルアミノプロピル)カルボジイミド、ジフェニルホスホリルアジド、ジピリジルジスルフィドートリフェニルホスフィン等の縮合剤の存在下、例えばNーヒドロキシスクシンイミド、Nーヒドロキシスクシンイミド、Nーヒドロキシインゾトリアゾール等のNーヒドロキシ化合物;4ーニトロフェノール、2,4ージニトロフェノール、2,4、5ートリクロロフェノール、ペンタクロロフェノール等のフェノール化合物等と反応させ得ることができ、活性アミドは、式[III]のカルボン酸を常法に従って、例えば1,1'ーカルボニルジイミダゾール、1,1'ーカルボニルビス(2ーメチルイミダゾール)等と反応させることにより得ることができる。

式 [III] のカルボン酸の反応性誘導体と式 [IV] の化合物又はその塩との縮合反応は、不活性な溶媒中で行うことが好ましく、そのような不活性有機溶媒としては、例えばジエチルエーテル、テトラヒドロフラン、N. N-ジメチルホルムアミド、ジオキサン、ベンゼン、トルエン、クロロベンゼン、塩化メチレン、クロロホルム、四塩化炭素、ジクロロエタン、トリクロロエチレン又は上記溶媒の混合物が挙げられ、特にジエチルエーテル、クロロホルム、テトラヒドロフラン、N. N-ジメチルホルムアミド、ジオキサン等が好ましい。

反応温度は、通常、-70 C ないし反応に用いる溶媒の沸点、好ましくは -20 C ~ 100 C の範囲内とすることができる。

また、式 [I I I] のカルボン酸の反応性誘導体に対する式 [I V] の化合物又はその塩の使用割合は厳密に制限されるものではなく、該反応性誘導体の種類等に応じて変えることができるが、通常、式 [I I I] のカルボン酸の反応性誘導体 1 モルあたり式 [I V] の化合物又はその塩は 1~5 モル、好ましくは 1~2 モルの範囲内で用いることができる。

10

15

20

25

30

一般式 [IX] で表される縮合化合物中、R'のが未保護若しくは保護された1~2個の水酸基又はオキソ基を有する炭素数3~6個のシクロアルキル基である場合又はR²⁰が未保護若しくは保護された1~2個の水酸基又はオキソ基を有する脂肪族炭化水素基の場合はそのまま又は保護基を除去し、該水酸基又はオキソ基をフッ素原子に変換する。

例えば式 [IX] の化合物におけるケタールの形で保護された水酸基及びオキソ基からの保護基の除去は、通常、含水溶媒中で無機酸、 有機酸、弱酸性塩等を用いて行うことができ、該無機酸としては、例えば、塩酸、硫酸等が挙げられ、有機酸としては、例えばパラトルエンスルホン酸、ベンゼンスルホン酸、カンファースルホン酸、酢酸等が挙げられ、また、該弱酸性塩としては、例えば、塩化アンモニウム、ピリジニウム パラトルエンスルホネート等が挙げられる。含水溶媒としては、含水メタノール、含水エタノール、含水テトラヒドロフラン、含水ジオキサン等が好ましい。反応は通常、触媒量~5 当量、好ましくは、触媒量~1 当量の酸又は塩を用いて0 $^{\circ}$ ~100 $^{\circ}$ 、好ましくは室温~80 $^{\circ}$ 00温度にて行うことができる。

水酸基又はオキソ基のフッ素原子への変換は、通常、例えば、塩化メチレン、クロロホルム、テトラヒドロフラン、メタノール、アセトニトリル、ジメチルスルホキシド、ピリジン等の反応に悪影響を及ぼさない不活性溶媒中か又は溶媒の非存在下で、例えば、四フッ化硫黄、三フッ化ジエチルアミノ硫酸、フッ化硫酸セシウム、フッ化テトラブチルアンモニウム、トリス(ジメチルアミノ)スルホニウムジフルオロトリメチルシリカート、フッ化水素、フッ化トシル等のフッ素化剤を1当量~過剰量、好ましくは1~2当量用いて、好ましくは-80℃~180℃の範囲で、10分間~72時間反応させることにより行うことが出来る。

一般式 [IV] 又は [IX] で表される化合物中、R²⁰が保護されたアミノ基又は保護された低級アルキルアミノ基を有する場合は、必要に応じて保護基の除去を行い、低級アルコキシカルボニル基又はアリールオキシカルボニル基が存在する場合にはアミノ基への適当な官能基変換を行う。アミノ保護基の除去はそれ自体公知の方法、例えば、プロテクティブ・グループス・イン・オーガニック・シンセシス(Protective Groups

15

20

25

30

in Organic Synthesis), T. W. グリーン(T. W. Greene) 著, John Wiley & Sons社(1981年)等に記載の方法又はそれに準ずる方法に従って、例えば、酸又は塩基を用いる加溶媒分解、水素化金属錯体等を用いる化学的還元、パラジウムー炭素触媒、ラネーニッケル触媒等を用いる接触還元等により行うことができる。

酸による加溶媒分解は、通常、例えば塩化メチレン、アニソール、テトラヒドロフラン、ジオキサン、メタノール、エタノール等の不活性溶媒若しくはそれらと水との混合溶媒中か、又は溶媒の非存在下で、例えばギ酸、トリフルオロ酢酸、塩酸、硫酸等の酸を用いて、好ましくは約0 $^{\circ}$ ~約100 $^{\circ}$ 0 の範囲内の温度で10分間~24時間処理することにより行うことができる。

塩基による加溶媒分解は、通常、例えばメタノール、エタノール、イソプロパノール、テトラヒドロフラン、ジオキサン等の反応に悪影響を及ぼさない不活性溶媒又はそれらと水との混合溶媒中、例えば水酸化リチウム、水酸化ナトリウム、水酸化カリウム等のアルカリ金属水酸化物;炭酸ナトリウム、炭酸カリウム等のアルカリ金属炭酸塩等を、好ましくは約-20 $^{\circ}$ $^{\circ}$

接触還元は、通常、例えばメタノール、エタノール、水、酢酸等の不活性溶媒又はその混合溶媒中、例えばパラジウムー炭素触媒、水酸化パラジウム、ラネーニッケル、酸化白金触媒等の触媒を用いて、好ましくは約 $1\sim$ 約20kg/cm²の水素圧下に、好ましくは約0° \sim 0040°000範囲内の温度で100010~024時間接触還元することにより行われる。

低級アルコキシカルボニル基又はアリールオキシカルボニル基のアミノ基への変換は、ヒドラジンを反応させて酸ヒドラジドとしたのち酸アジドとするか、加水分解によりカルボン酸としたのち酸アジドとし、ついで転移、加水分解することにより行うことができる。

また、製造工程(b)において、第一段階における式[III]のカルボン酸又はその反応性誘導体と式[V]のピペリジン誘導体との縮合反応は、

15

20

25

30

製造工程(a)における式[III]のカルボン酸又はその反応性誘導体と式[IV]の化合物との縮合反応と同様にして実施することができる。

この縮合反応により得られる前記式 [VI] の化合物は、次いで、イミノ基の保護基が除去される。

式 [VI] の化合物からのイミノ保護基の除去は、前記アミノ基の保護基の除去と同様の方法で行うことができる。

かくして得られる一般式 [X]

$$HO \xrightarrow{Ar} O \\ NH \qquad [X]$$

[式中、Ar、R¹⁰及びXは前記の意味を有する。]で表される化合物は、第2段階において、式[VII]の化合物と、必要に応じて、塩基の存在下に反応せしめられる。

式 [X] の化合物と式 [VII] の化合物との反応は、適当な溶媒中、通常、ほぼ等モル量又はどちらか一方を少過剰量 (例えば、式 [X] の化合物 1 モルあたり式 [VII] の化合物 1~1.3 モルの割合で) 使用して行われるが、必要に応じてどちらか一方を大過剰使用して行うこともできる。また必要に応じて適当な塩基や反応助剤を用いて行うこともできる。

溶媒としては、例えばジエチルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン等のエーテル類:ベンゼン、トルエン、クロロベンゼン、キシレン等の芳香族炭化水素類:ジメチルスルホキシド、N. N-ジメチルホルムアミド、アセトニトリル、ヘキサメチルリン酸トリアミド等の非プロトン性極性溶媒、又はそれらの混合溶媒等が挙げられる。

また、用いうる塩基としては、例えば炭酸水素ナトリウム、炭酸水素カリウム等のアルカリ金属重炭酸塩;例えば炭酸ナトリウム、炭酸カリウム等のアルカリ金属炭酸塩;例えばトリメチルアミン、トリエチルアミン、N. Nージイソプロピルエチルアミン、Nーメチルモルホリン、Nーメチルピロリジン、Nーメチルピペリジン、N. Nージメチルアニリン、1, 8-ジアザ

15

20

25

30

ビシクロ [5.4.0] ウンデカー7-エン (DBU) 、1.5-ジアザビシクロ [4.3.0] ノナー5-エン (DBN) 等の第3級脂肪族アミン: 例えばピリジン、4-ジメチルアミノピリジン、ピコリン、ルチジン、キノリン、イソキノリン等の芳香族アミンが挙げられ、特にN,N-ジイソプロピルエチルアミン、炭酸カリウムが好ましい。

上記反応に使用しうる反応助剤としては、例えば、ヨウ化リチウム、ヨウ化ナトリウム、ヨウ化カリウム等のアルカリ金属ヨウ化物が挙げられ、特にヨウ化カリウムが好ましい。

通常、反応温度は、約0℃~溶媒の沸点までの温度が用いられ、また反応時間は10分間~48時間とすることできるが、必要に応じてこれ以上又はこれ以下の条件を用いることもできる。

そして必要に応じて、製造工程 (a) において記載した R^{10} 及び R^{20} の変換反応を行う。

さらに、製造工程 (c) に従う前記式 [X] の化合物の式 [VIII] の アルデヒドによる還元的アルキル化反応は、通常、反応に悪影響を及ぼさな い不活性溶媒中で行われ、当該不活性溶媒としては、例えばメタノール、エタノール等のアルコール類; 例えばジエチルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン等のエーテル類; ベンゼン、トルエン等の芳香族炭化水素類、又はそれらの混合溶媒等が挙げられ、特にメタノール、エタノール、テトラヒドロフラン、トルエン等が好ましい。

反応温度は、通常、約-30°C~約200°C、好ましくは約0°C~約100°Cとすることができ、また、反応時間は、通常、10分間~7日間、好ましくは10分間~24時間とすることができる。

また、上記還元的アルキル化反応は、シッフ塩基が生成しやすい弱酸性下で行うことが好ましく、そのためのpH調節に用いうる酸としては、例えばp-トルエンスルホン酸、塩酸、酢酸、トリフルオロ酢酸等が挙げられる。

還元的アルキル化は、例えば水素化ホウ素ナトリウム、シアノ水素化ホウ素ナトリウム、水素化リチウムアルミニウム、トリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム等の水素化金属錯体等を用いるか、又は例えばパラジウムー炭素 触媒、ラネーニッケル触媒等を用いた接触還元により行うことができ、例え

25

ば水素化ホウ素ナトリウム、シアノ水素化ホウ素ナトリウム等の水素化金属 錯体を用いて行うことが好ましい。特にシッフ塩基が生成しやすい弱酸性下 で還元反応を行う場合、酸性下で比較的安定なシアノ水素化ホウ素ナトリウ ム等を用いることが好ましい。

還元剤として水素化金属錯体を用いる場合、還元剤の使用量は、通常、式 [X] の化合物 1 モルに対して、1 モル〜過剰モル、好ましくは 1~10 モルとすることができる。

そして必要に応じて、製造工程 (a) において記載した R^{10} 及び R^{21} の変換反応を行う。

10 以上に述べた製造工程(a)、(b)及び(c)で得られる式 [I]の化合物は、それ自体既知の方法、例えばシリカゲル、吸着樹脂等を用いるカラムクロマトグラフィー、液体クロマトグラフィー、薄層クロマトグラフィー、溶媒抽出又は再結晶・再沈澱等の常用の分離手段を用いて精製・単離することができる。

15 また、本発明の化合物及び中間体は、エナンチオメリック異性体、ジアステレオ異性体、幾何異性体等の立体異性体として存在するが、本発明の化合物は立体異性的にみて純粋な形の物質及びそれらの混合物をも包含する。本発明の化合物及び中間体がラセミ体である場合の光学分割は、キラルな担体を用いる高速液体クロマトグラフィー又はジアステレオメリックな塩の分別結晶化等の通常の手段により達成される。

上記の方法により得られる一般式 [I] の化合物は、常法により薬学的に 許容されうる塩とすることができ、また逆に塩から遊離アミンへの変換も常 法に従って行うことができる。

本発明の式 [I] の化合物は、強力かつ選択的なムスカリン受容体結合阻害作用及びin vitroにおける受容体拮抗作用を示し、更にin vivoにおいて強力かつ持続的な気管支拡張作用を示した。本発明の化合物がもつかかる作用は、以下に示すムスカリン受容体結合阻害試験及び各種ムスカリン受容体拮抗試験によって実証される。

<u>ムスカリン</u>受容体結合阻害試験

30 ハーグリーブス(Hargreaves)らの方法 [Br. J.

Pharmacol., 107巻, 494-501頁(1992年)]を改 良して行った。すなわち、CHO細胞に発現させたm1~m5のムスカリン 件アセチルコリンレセプター (Receptor Biology社製)、 0. 2 n M [³H] − N − メチルスコポラミン (8 4 C i / m m o l , New England Nuclear製)及び被検化合物を0.5ml の50mMトリス-塩酸、10mM MgCl₂, 1mM EDTA溶液 (pH7. 4) 中で室温(約20~25℃)、120分間インキュベートし た後グラスフィルター (Packard ユニフィルタープレート GF/ C) で吸引濾過し、1m1の氷冷したトリス-塩酸パッファーで4回洗浄し た。フィルターを50℃で1時間乾燥後、シンチレーター(Packard マイクロシンチ 0) を加えてフィルターに吸着した [³H] - N - メチル スコポラミンの放射活性をマイクロプレートシンチレーションカウンター (Packard トップカウント)で測定した。なお[³H] -N-メチ ルスコポラミンの受容体非特異的結合は、1μMN-メチルスコポラミンを 添加して求めた。本発明化合物のムスカリン受容体に対する結合親和性は、 チェン及びプルソフ(Cheng and Prusoff)の方法 [Biochem. Pharmacol., 22巻, 3099-3108頁 (1973年)] に従って、標識リガンドである[³H] - N - メチルスコ ポラミンの結合を50%抑制する被検化合物の濃度(ICҕ₀)より算出した 解離定数(Ki)を求めた。

25

10

15

20

表1 ムスカリンm2及びm3受容体結合阻害作用

	K _i (nM)		m (m
	m_2	m ₃	m_2/m_3
実施例1の 化合物	3200	5.5	590
実施例10 の化合物	17000	8.9	1900
実施例11 の化合物	460	3.2	140
実施例12 の化合物	8600	30	290
実施例14 の化合物	1400	10	140
実施例15 の化合物	1000	3.5	290
実施例20 の化合物	550	3.0	180
実施例21 の化合物	50000	22	2300
実施例22 の化合物	13000	19	680
実施例26 の化合物	24000	22	1100
実施例27 の化合物	4200	20	210
実施例31 の化合物	10000	19	520

25

30

15

5

10

上記表 1 に示す結果から明らかなように、本発明の化合物はムスカリン m_z 受容体より5 m_s 受容体に対してはるかに強い結合阻害活性を示した。 ムスカリン受容体拮抗試験 (in vitro)

1) 摘出ラット右心房におけるM2受容体拮抗試験

本試験法は常法に従い行った。SD系雄性ラット($300\sim500g$)を 脱血致死させ、右心房を摘出した。標本を20m1のクレブスーへンゼライ ト栄養液($95\%O_2$. $5\%CO_2$ 通気、32%)で満たしたマグヌス管内に 初期張力0. 5gにて等尺性に懸垂した。拍動数は心拍計を用いて記録し た。30分間平衡化した後、カルバコール($10^{-9}\sim10^{-6}$ M)を低濃度か ら3倍用量にて累積的に投与し、拍動数の減少を測定して、コントロールの 用量反応曲線を得た。新鮮液にて洗浄し拍動数が回復した後、被験化合物を 投与し、その10分後に再びカルバコールを累積的に投与した。カルバコー ルによる反応は、カルバコール投与前の拍動数を100%として表した。本 発明の化合物処置による用量反応曲線のシフトの程度から、被験化合物の拮 抗効力(K_B値)を求めた。

2) 摘出ラット気管における気道M3受容体拮抗試験

本試験法は常法に従い行った。SD系雄性ラット(300~500g)を脱血致死させ、気管を摘出した。気管を2mm幅のリング状にしたのち、腹側軟骨部分を切り開き横切標本を作成した。標本を5mlのクレブスーヘンゼライト栄養液(95%O₂、5%CO₂通気、32℃)で満たしたマグヌス管内に、初期張力1.0g、静止張力0.6gにて懸垂した。標本の張力は等尺性に記録した。1時間平衡化した後、10⁻¹Mのカルバコールにより2回収縮させ、2回目のカルバコール収縮をリファレンスの収縮とした。新鮮液にて洗浄し基線に戻った後、被験化合物を投与し(或いは無処置)、その10分後からカルバコール(10⁻³~10⁻³M)を3倍用量で累積的に投与し、用量反応曲線を得た。用量反応曲線は各標本におけるリファレンスの収縮を100%として表した。被験化合物処置による用量反応曲線のシフトの程度から、被験化合物の拮抗効力(K_B値)を求めた。

表2 ムスカリン受容体拮抗作用 (in vitro)

	K _B (nM)		M /NS	
	右心房M ₂	気管M ₃	M ₂ /M ₃	
実施例1の 化合物	1000	6.3	160	
実施例 11 の化合物	610	0.95	640	
実施例 20 の化合物	2100	1.6	630	

上記表2に示す結果から明らかなように、本発明の化合物は右心房M₂より気管M₃の受容体に対しはるかに強く拮抗した。したがって、本発明の化

20

10

15

25

10

15

20

合物は気管M₃受容体に、より選択的な化合物である。

<u>ムスカリンM₃受容体拮抗試験 (in vivo)</u>

1-A) ラットにおける気管支拡張作用 (i. v.)

8-11週齢(380-420g)のスプラーグドーリィ系雄性ラットをウレタン(750 mg/kg, i. p.)及び α -クロラロース(37.5 mg/kg, i. p.)及び α -クロラロース(37.5 mg/kg, i. p.)で麻酔し、気管にカニューレを挿入した。また、薬物投与用として、右総頚静脈にカニューレを挿入した。サクシニルコリン(5 mg/body, s. c.)により自発呼吸を完全に抑制した後、Pulmonary Mechanics Model 6(Buxco)を用いて人工換気下にて気道抵抗を測定した。被検物質投与5分前及び投与5分後におけるアセチルコリン(50 μ g/kg.i.v.)誘発の気道抵抗値を測定し、被検物質投与5分前の気道抵抗値に対する投与5分後の気道抵抗値の割合を算出した。コントロール群として、被検物質の代わりに生理食塩水を用い、同様の操作を行い、気道抵抗値の割合を算出し、これを100%とした。コントロール群におけるアセチルコリン誘発気道抵抗増加率を50%に抑制する用量をED50値と定義し、被検物質の用量反応曲線よりプロビット解析を用いてED50値を算出した。

1-B) ラットにおける気管支拡張作用 (p. o.)

被検物質を経口投与した、8-11 週齢(380-420g)のスプラーグドーリィー系雄性ラットを投与30 分後よりi. v. 試験と同様の処置を施し、気道抵抗を測定した。被検物質投与60 分後におけるアセチルコリン($50\mu g/kg$, i. v.)誘発の気道抵抗値を測定した。コントロール群として、被検物質の代わりに生理食塩水を用い、同様の操作を行い、気道抵抗値を測定し、これを100 %とした。コントロール群におけるアセチルコリン誘発気道抵抗値を50 %に抑制する用量を ED_{50} 値を算出した。彼検物質の用量反応曲線よりプロビット解析を用いて ED_{50} 値を算出した。

15

20

25

30

表3 ムスカリン受容体拮抗作用 (in vivo)

	気道収縮抑制	ED ₅₀ (mg/Kg)		
	iv	ро		
実施例1	0.033	_		
の化合物	0.000			
実施例 11	0.032	0.22		
の化合物				
実施例20	0,040	0.37		
の化合物	0,040	0.07		
実施例 26	0.37	0.95		
の化合物				
atoropine	0.0043	_		
ipratropium	0.0015	_		

2) イヌにおける気管支拡張作用(P.O.)

12-24ケ月齢(10-15kg)の雄性ビーグル犬をペントバルビタール(30mg/kg. i. v.)で麻酔後、気管カニューレを挿入し、メサコリン吸入誘発試験によって、気道の感受性(メサコリン吸入閾値)を2週間間隔で少なくとも2回以上測定し、再現性のあるメサコリン反応閾値いを示す犬を選択した。メサコリン反応閾値が確定している犬に被験物質を経口投与(1mg/kg)し、投与4時間後に再度メサコリン吸入誘発試験を行うことにより、被験物質投与後のメサコリン反応閾値²¹を測定した。被験物質の気管支拡張作用は、以下の式により求めた。

メサコリン吸入誘発試験は、チェスト社製アストグラフTCK-6100H型を用いて行った。吸入誘発薬は、塩化メサコリンを用い、生理 食塩水にて、40000μg/mlより順次20000、10000、 5000、2500、1250、625、312.5、156、78μg/ mlの10段階の濃度に希釈した。このメサコリンエロゾルを低濃度より1分間ずつ吸入させ、呼吸抵抗を連続的に描記した。呼吸抵抗が初期値の2倍になるメサコリン濃度をメサコリン閾値とした。

表4 イヌにおける気管支拡張作用(経口投与)

	メサコリン吸入誘発試験 (1mg/Kg, P.O.) shift 値 (4時間後)
実施例11 の化合物	21
実施例20 の化合物	> 69
実施例26 の化合物	> 64

10

15

20

25

30

上記表 4 に示す結果から明らかなように、本発明の化合物は強い気管支拡 張作用及び持続性を示した。

以上のとおり、本発明の式 [I] の化合物は、フッ素原子の導入を特徴として、強力かつ選択的なムスカリンM。受容体拮抗作用を示し、かつ、優れた経口活性、作用持続性及び体内動態を示す。従って、副作用の少ない安全な医薬として、殊に、慢性閉塞性肺疾患、慢性気管支炎、喘息及び鼻炎等の呼吸器系疾患:過敏性腸症候群、痙性大腸炎、憩室炎及び消化器系平滑筋れん縮に伴う疼痛等の消化器疾患:神経性頻尿、神経因性膀胱、夜尿症、不安定膀胱、膀胱痙縮、慢性膀胱炎等の疾患における尿失禁及び頻尿等の泌尿器系疾患;及び乗り物酔いの治療又は予防のために、患者に対し経口的又は非経口的に投与することができる。

本発明の化合物は、上記の如き疾患の治療又は予防のために実際に使用するに際して、常法に従い、薬学的に許容されうる添加剤と共に、投与に適した剤形に製剤化することができる。該添加剤としては、製剤分野において通常用いられる各種の添加剤が使用可能であり、例えばゼラチン、乳糖、白糖、酸化チタン、デンプン、結晶セルロース、ヒドロキシプロピルメチルセ

15

20

25

30

ルロース、カルボキシメチルセルロース、トウモロコシデンプン、マイクロクリスタリンワックス、白色ワセリン、メタケイ酸アルミン酸マグネシウム、無水リン酸カルシウム、クエン酸、クエン酸三ナトリウム、ヒドロキシプロピルセルロース、ソルビトール、ソルビタン脂肪酸エステル、ポリソルベート、ショ糖脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン、硬化ヒマシ油、ポリビニルピロリドン、ステアリン酸マグネシウム、軽質無水ケイ酸、タルク、植物油、ベンジルアルコール、アラビアゴム、プロピレングリコール、ポリアルキレングリコール、シクロデキストリン又はヒドロキシプロピルシクロデキストリン等が挙げられる。

これらの添加剤を用いて製剤化される剤形としては、例えば錠剤、カプセル剤、顆粒剤、散剤若しくは坐剤等の固形製剤;例えばシロップ剤、エリキシル剤、注射剤等の液体製剤等が挙げられ、これらは、製剤分野における通常の方法に従って調製することができる。なお、液体製剤は、用時に水又は他の適当な媒体に溶解又は懸濁させる形のものであってもよい。また、特に注射剤は、予め生理食塩水又はブドウ糖液に溶解又は懸濁させた形態であってもよく、又は用時に生理食塩水又はブドウ糖液に溶解又は懸濁させて用いる粉末形態であってもよく、更に場合によっては緩衝剤や保存剤を含有させてもよい。

また、経口投与製剤としては、通常の錠剤、カプセル剤、顆粒剤、散剤等の他、エアロゾール若しくは乾燥粉末吸入剤形又は香料若しくは着色剤を含むエリキシル剤若しくは懸濁液の形とすることができる。

これらの製剤は、本発明の化合物を全薬剤の1.0~100重量%、好ましくは1.0~60重量%の割合で含有することができる。これらの製剤は、また、治療上有効な他の化合物を含んでいてもよい。

本発明の化合物を薬剤として使用する場合、その投与量及び投与回数は、 患者の性別、年齢、体重、症状の程度及び目的とする治療効果の種類と範囲 等により異なるが、一般に経口投与の場合、成人1日あたり、0.1~ 100mg/kgを1~数回に分けて、また非経口投与の場合は、0. 001~10mg/kgを1~数回に分けて投与するのが好ましい。

以下に実施例を挙げて本発明を具体的に説明するが、本発明はこれらによ

り何ら限定されるものではない。

実施例1

(2R) -N-[1-(4-メチル-3-ペンテニル) ピペリジン-4-イル] <math>-2-[(1R)-3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド

構造式

10

15

20

25

30

5

工程1. 1-(4-メチル-3-ペンテニル)-4-ピペリドンの合成

4 ーピペリドン・一塩酸塩・一水和物2.5 gのアセトニトリル150m1溶液に炭酸カリウム11g、5ープロモー2ーメチルー2ーペンテン2.62g及びヨウ化カリウム800mgを順次加え、3時間加熱還流した。反応液を酢酸エチルで希釈し、水、飽和食塩水にて洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し表題化合物2.24gを白色固体として得た。

工程2. <u>4-アミノー1-(4-メチル-3-ペンテニル) ピペリジンの合</u> <u>成</u>

2-ヒドロキシー2-フェニルアセトアミドの合成

(2R) -[(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシー2-フェニル酢酸75 mg 0N, N-ジメチルホルムアミド3m1溶液に室温にて、1, 1' -カルボニルジイミダゾール55 mg 2を加え同温にて 2時間撹拌した。反応液に更に4-アミノー1- (4-メチルー3-ペンテニル) ピペリジン60 mg、4-ジメチルアミノピリジン5 mg 2を順次加え室温にて 1 晩撹拌した。反応液をジエチルエーテルにて希釈し飽和重曹水、水、飽和食塩水にて順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し得られた残渣を分取用薄層クロマトグラフィー(KieselgelTM60 F_{254} 、Art5744(メルク社製)クロロホルム/メタノール=10/1)にて精製し、表題化合物23 mg 2を油状物質として得た。

「H-NMR(CDC1₃、 δ p p m):1.32-1.50(2 H.m),1.60(3 H,s),1.68(3 H,s),1.58-2.34(12 H,m),2.43-2.49(1 H,m),2.73-2.82(3 H,m),3.23-3.36(I H,m),3.48(1 H.brs),3.62-3.73(1 H,m),5.03-5.08(1 H,m),6.29-6.33(1 H,m),7.25-7.39(3 H.m),7.54-7.57(2 H,m)
低分解能FAB-MS(m/e,(C₂₄H₃₄F₂N₂O₂+H) たして):421

実施例2

(2R) -N- [1-(4-メチル-3-ペンテニル) ピペリジン-4-イル] -2- [(1S) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド 構造式

10

15

20

(2R) ー [(1S) - 3, 3-ジフルオロシクロペンチル] ー2ーヒドロキシー2ーフェニル酢酸を用い、実施例1 工程3と同様の方法にて表題化合物を製造した。

¹H-NMR (CDC1₃, δppm): 1.60 (3H, s), 1.68 (3H, s), 1.35-2.48 (15H, m), 2.75-2.86 (3H, m), 3.22-3.36 (1H, m), 3.48 (1H, brs), 3.61-3.76 (1H, m), 5.03-5.08 (1H, m), 6.27 (1H, d, J=8.0Hz), 7.26-7.40 (3H, m), 7.55-7.58 (2H, m)

低分解能 FAB-MS (m/e, (C₂₄H₃₄F₂N₂O₂+H) として): 421

実施例3

(2R) -N- [1- (4-メチル-3-ペンテニル) ピペリジン-4-イル] -2- [(1S, 3S) -3-フルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド及び (2R) -N- [1- (4-メチル-3-ペンテニル) ピペリジン-4-イル] -2- [(1S, 3R) -3-フルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド構造式

25

20

30 (2 R) - [(1 S) - 3 - フルオロシクロペンチル] - 2 - ヒドロキ

15

20

25

30

シー2-フェニル酢酸を用い、実施例1工程3と同様の方法にて表題化合物を製造し最終工程で分離した。

 $(2R) -N - [1 - (4 - \cancel{1} + \cancel{1} + \cancel{1} + \cancel{2} - \cancel{1} + \cancel{1} +$

'H-NMR (CDC1₃, δ ppm): 1.60 (3H, s), 1.68 (3H, s), 1.31-2.33 (15H, m), 2.44-2.49 (1H, m), 2.69-2.81 (2H, m), 3.19-3.30 (1H, m), 3.62-3.74 (1H, m), 3.90 (1H, brs), 5.03-5.28 (2H, m), 5.87-5.91 (1H, m), 7.25-7.40 (3H, m), 7.53-7.57 (2H, m) 低分解能FAB-MS (m/e, (C₂₄H₃₅FN₂O₂+H) として): 403

(2R) -N-[1-(4-メチル-3-ペンテニル) ピペリジン-4-1ル] -2-[(1S, 3R) -3-フルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド

'H-NMR (CDCl₃, δppm): 1. 61 (3H, s), 1. 68 (3H, s), 1. 37-2. 26 (14H, m), 2. 32-2. 37 (2H, m), 2. 75-2. 90 (2H, m), 3. 43-3. 56 (1H, m), 3. 62-3. 76 (1H, m), 5. 04-5. 13 (2H, m). 6. 91-6. 95 (1H, m), 7. 23-7. 35 (3H, m), 7. 67-7. 71 (2H, m)
低分解能FAB-MS (m/e, (C₂₄H₃₅FN₂O₂+H) として): 403

実施例 4

(2R) -N-[1-(4-メチル-3-ペンテニル) ピペリジン-4-4 ν] -2-[(1R, 3S) -3-フルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド及び <math>(2R) -N-[1-(4-メチル-3-ペンテニル) ピペリジン-4-4ル] -2-[(1R, 3R) -3-フ

10

15

20

<u>ルオロシクロペンチル</u>] <u>-2ーヒドロキシー2ーフェニルアセトアミド</u> 構造式

(2R) - [(1R) - 3 - フルオロシクロペンチル] - 2 - ヒドロキシー2 - フェニル酢酸を用い、実施例1工程3と同様の方法にて表題化合物を製造し最終工程で分離した。

(2R) -N-[1-(4-メチル-3-ペンテニル) ピペリジン-4-イル] <math>-2-[(1R, 3S) -3-フルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド

 1 H-NMR(CDC1₃、 δ ppm):1. 60(3H、s),1. 70(3H、s),1. 38-2. 17(14H、m),2. 27-2. 32(2H、m),2. 70-2. 81(2H、m),3. 19-3. 32(1H、m),3. 63-3. 74(1H、m),3. 93(1H、brs),5. 00-5. 21(2H、m),5. 96-6. 02(1H、m),7. 26-7. 38(3H、m),7. 55-7. 58(2H、m)低分解能FAB-MS(m/e,(C₂₄H₃₅FN₂O₂+H):として):403

(2R) - N - [1 - (4 - メチル - 3 - ペンテニル) ピペリジン - 4 - イル] - 2 - [(1R, 3R) - 3 - フルオロシクロペンチル] - 2 - ヒドロ キシー2 - フェニルアセトアミド

¹H-NMR (CDCl₃, δ ppm): 1. 60 (3H, s), 1. 68 (3H, s), 1. 38-2. 32 (6H, m), 2. 74-2. 88 (2H, m), 3. 41-3. 52 (1H, m), 3. 63-3. 74 (1H, m), 5. 02-5. 21 (2H, m), 6. 90 (1H, d, J = 8. 2Hz), 7. 23-7. 35 (3H, m), 7. 66-7. 69 (2H, m)

低分解能FAB-MS (m/e, (C₂₄H₃₅FN₂O₂+H) として): 403

実施例5

N-[1-[(3Z)-4-h]] ピペリ 2-4-h 2-4-

構造式

15

20

25

2ーシクロペンチルー2ーヒドロキシー2ーフェニル酢酸3.51gのN,Nージメチルホルムアミド40ml溶液に1.1'ーカルボニルジイミダゾール2.63gを加え室温で2時間撹拌した。4ーアミノー1ー(tープトキシカルボニル)ピペリジン・1塩酸塩3.96g、4ージメチルアミノピリジン200mg及びジイソピロピルエチルアミン6.9mlを加え、室温にて一晩撹拌した。反応液に飽和重曹水を加えてジエチルエーテル抽出し、有機層を飽和食塩水で洗浄後無水硫酸ナトリウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(展開溶媒:ヘキサン/酢酸エチル=3/1)にて精製し白色固体2.84gを得た。この固体を10%塩酸ーメタノール30mlに溶解し室温にて一晩攪拌した。メタノールを減圧留去し得られた残渣を水にて希釈後ジエチルエーテル洗浄した。水層を水酸化ナトリウムにてアルカリ性としクロロホルム抽出し、有機層を水、飽和食塩水にて順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し表題化合物2.15gを白色固体として得た。

30 工程2. <u>(3Z) -4-トリフルオロメチルー3-ペンテニル tーブチル</u>

10

15

20

25

ジフェニルシリルエーテルの合成

臭化($3-t-7+\nu$ ジフェニルシリル オキシプロピル)トリフェニルホスホニウム 2.94gのテトラヒドロフラン40m1溶液に、-78℃下 $n-7+\nu$ リチウム 1.7Mへキサン溶液 2.5m1を滴下し、-20℃へと昇温し1時間撹拌した。 再び -78℃へ冷却しトリフルオロアセトン 0.5m1を滴下し室温へと昇温しながら一晩撹拌した。反応液をヘキサンにて希釈し、10%塩酸、水、飽和食塩水にて順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(展開溶媒:ヘキサン/酢酸エチル=9/1)にて精製し表題 化合物 1.44gを得た。

工程3. <u>(32) -4-トリフルオロメチル-3-ペンテノールの合成</u>

(32) ー4ートリフルオロメチルー3ーペンテニル tーブチルジフェニルシリルエーテル1. 44gのテトラヒドロフラン8ml溶液にフッ化テトラブチルアンモニウム1.0Mテトラヒドロフラン溶液4.4mlを加え、室温にて2時間撹拌した。反応液をジエチルエーテルにて希釈し、水、飽和食塩水にて順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(展開溶媒:酢酸エチル)にて精製し表題化合物414mgを得た。

工程4. <u>(32) -4-トリフルオロメチル-3-ペンテニル pートルエ</u> ンスルホネートの合成

(3 Z) -4-トリフルオロメチル-3-ペンテノール4 1 4 m gのピリジン6 m 1 溶液に、氷冷下pートルエンスルホニルクロリド5 6 5 m gを加え室温にて16時間撹拌した。反応液をジエチルエーテルにて希釈し水、飽和食塩水にて順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(展開溶媒:ヘキサン/酢酸エチル=9/1)にて精製し表題化合物412 m g を得た。

工程5. N-[1-[(3Z)-4-h]] アルカー N-[1-[(3Z)-4-h]] アルカ

15

20

25

2-7ェニルアセトアミド 77 m g の N 、 N ー ジメチルホルムアミド 3 m l 溶液に室温にて、 (32)-4- トリフルオロメチルー 3 ーペンテニル p- トルエンスルホネート 74 m g、炭酸カリウム 102 m g、ヨウ化カリウム 43 m g を 順次加え 3 時間加熱還流した。 反応液を ジエチルエーテルにて希釈し、水、飽和食塩水にて順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。 溶媒を 減圧 留去 し 得られた 残渣を 分取 用 薄層 クロマトグラフィー (KieselgelTM 60 F $_{254}$ 、Art 5744 (メルク社製) クロロホルム/メタノール= 9/1) にて精製し、表題化合物 27 m g を 油状物質として 得た。

'H-NMR (CDCl₃、δppm): 1. 12-1. 88 (16H, m), 1. 83 (3H, s), 2. 01-2. 13 (2H, m), 2. 68-2. 80 (2H, m), 2. 97-3. 10 (1H, m), 3. 13 (1H, brs), 3. 62-3. 76 (1H, m), 5. 65-5. 72 (1H, m), 6. 32 (1H, d, J=8. 5Hz), 7. 23-7. 36 (3H, m), 7. 59 (2H, d, J=7. 3Hz) 低分解能FAB-MS (m/e, (C₂₄H₃₃F₃N₂O₂+H) として):

実施例6

439

 $N-[1-[(32)-4-7\nu + 1-3-4\nu +$

構造式

フルオロアセトンを用い、実施例5工程2-5と同様の方法にて表題化合物を製造した。

 $^{1}H-NMR$ (CDCl₃, δ ppm) : 1. 04-2. 16 (14H.

10

15

20

25

m), 1. 79 (3H, s), 2. 16-2. 28 (2H, m), 2. 28-2. 40 (2H, m), 2. 66-2. 86 (2H, m), 2. 94-3. 24 (2H, m), 3. 62-3. 78 (1H, m), 4. 86 (2H, d, J=47. 5Hz), 5. 34-5. 44 (1H, m), 6. 36 (1H, d, J=8. 3Hz), 7. 22-7. 40 (3H, m), 7. 56-7. 64 (2H, m)

実施例7

 $N-[1-[(3E)-4-7\nu + 1-3-4\nu +$

構造式

工程1. (2E) -5-プロモー2-メチルー2-ペンテノールの合成

二酸化セレン681mgのジクロロメタン10ml溶液に室温にて過酸化 tーブチル2.5mlを加え同温にて30分攬拌後、5ーブロモー2ーメチ ルー2ーペンテン2.0gを加え、更に2時間撹拌した。反応液をジエチル エーテルにて希釈しチオ硫酸ナトリウム水溶液、10%水酸化カリウム水溶 液、飽和食塩水にて順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減 圧留去し得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(展開溶媒: ヘキサン/酢酸エチル=20/1~4/1)にて精製し表題化合物1. 24gを得た。

 $(2E) - 5 - 7 \pi - 2 - 2 - 2 + 2 \pi - 2 - 2 - 2 \pi - 2 - 2 \pi - 2 - 2 \pi -$

15

20

302mg、イミダゾール137mgを加え、室温にて1時間撹拌した。反応液をジェチルエーテルにて希釈し水、飽和食塩水にて順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去することにより表題化合物604mgを得た。

五程3. N-[1-[(3E)-4-t-ブチルジメチルシリルオキシメチル-3-ペンテニル] ピペリジン-4-イル] -2-シクロペンチル-2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミドの合成

(2E) -5-ブロモー2-メチルー2-ペンテニル tーブチルジメチルシリルエーテル を用い、実施例5工程5と同様の方法にて表題化合物を製造した。

工程4. N-[1-[(3E)-4-フルオロメチル-3-ペンテニル] ピペリジン-4-イル] -2-シクロペンチル-2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミドの合成

フッ化テトラブチルアンモニウム 3 水和物 5 9 m g のテトラヒドロフラン 3 m 1 溶液にモレキュラーシーブス 4 A 2 0 0 m g 、 N - [1 - [(3E) -4 - t -

"H-NMR (CDCl₃, δ ppm): 1. 10-1. 76 (10H, m), 1. 70 (3H, s), 1. 76-1. 95 (2H, m), 1. 95-2. 42 (6H, m), 2. 72-2. 88 (2H, m), 2. 94-3. 24 (2H, m), 3. 62-3. 78 (1H, m), 4. 69 (2H, d, J=47. 8Hz), 5. 44-5. 54 (1H, m), 6. 37 (1H, d, J=8. 0Hz), 7. 22-7. 40 (3H, m), 7. 56-7. 64 (2H, m)

低分解能FAB-MS $(m/e, (C_{24}H_{35}FN_2O_2+H)$ として) : 403

実施例8

構造式

10

15

20

25

(2R) -2- [(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシー2-フェニル酢酸及びシクロヘプチルメチル メタンスルホネートを用い、実施例5工程1及び5と同様の方法にて表題化合物を製造した。

「H-NMR (CDC1₃、 δ p p m) : 1. 03-2. 27 (27 H, m) , 2. 63-2. 71 (2 H, m) , 3. 21-3. 33 (1 H, m) , 3. 49 (1 H, b r s) , 3. 61-3. 72 (1 H, m) , 6. 23 (1 H, d, J=8. 3 H z) , 7. 27-7. 39 (3 H, m) , 7. 53-7. 57 (2 H, m) 低分解能FAB-MS (m/e, ($C_{26}H_{36}F_2N_2O_2+H$) として) :

実施例 9

4 4 9

30 構造式

10

15

20

(2R) - 2 - [(1R) - 3, 3 - ジフルオロシクロペンチル] - 2 - ヒドロキシー2 - フェニル酢酸を用い、実施例7 と同様の方法にて表題化合物を製造した。

'H-NMR (CDC1₃、δppm): 1、34-1、52 (2H,m), 1、69 (3H,s), 1、75-2、31 (12H,m), 2、31-2、46 (2H,m), 2、72-2、86 (2H,m), 3、24-3、38 (1H,m), 3、43 (1H,brs), 3、62-3、78 (1H,m), 4、69 (2H,d,J=47、8Hz), 5、42-5、52 (1H,m), 6、34 (1H,d,J=7、9Hz)、7、24-7、42 (3H,m)、7、52-7、60 (2H,m) 低分解能FAB-MS (m/e、(C₂₄H₃₃F₃N₂O₂+H) *として): 439

実施例10

 (2R) -N-[1-(6-メチルピリジン-2-イルメチル) ピペリジン-4-イル] -2-[(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド 構造式

25

15

20

25

<u>トアミドの合成</u>

(2R) - 2 - [(1R) - 3, 3 - ジフルオロシクロペンチル] - 2 - ヒドロキシー 2 - フェニル酢酸を用い、実施例 5 工程 1 と同様の方法にて表題化合物を製造した。

'H-NMR (CDC1₃, δ ppm): 1. 35-1. 50 (2H, m), 1. 72-2. 23 (10H, m), 2. 53 (3H, s), 2. 70-2. 80 (2H, m), 3. 21-3. 35 (1H, m), 3. 59 (2H, s), 3. 60-3. 78 (1H, m), 6. 31 (1H, d, J=8. 5Hz), 7. 02 (1H, t, J=7. 6Hz), 7. 18 (1H, d, J=7. 6Hz), 7. 28-7. 39 (3H, m), 7. 50 (1H, d, J=7. 6Hz), 7. 53-7. 59 (2H, m)

実施例11

30 構造式

15

20

チオフェンー3ーアルデヒドを用い、実施例10工程2と同様の方法にて表 題化合物を製造した。

'H-NMR (CDCl₃, δ ppm): 1. 30-1. 50 (2H, m). 1. 56-2. 30 (10H, m), 2. 66-2. 82 (2H, m). 3. 22-3. 37 (1H, m), 3. 40 (1H, s), 3. 49 (2H, s), 3. 61-3. 78 (1H, m), 6. 25 (1H, d, J=8. 2Hz), 7. 02 (1H, dd, J=1. 1Hz, 7. 6Hz). 7. 06-7. 12 (1H, m), 7. 22-7. 42 (4H, m), 7. 50-7. 60 (2H, m)

低分解能FAB-MS (m/e, (C23H28F2N2O2S+H) 'として): 435

実施例12

構造式

25

フランー3-アルデヒドを用い、実施例10工程2と同様の方法にて表題化 合物を製造した。

 30 $^{1}H-NMR$ (CDCl₃, δppm) : 1. 32-1. 47 (2H,

m), 1. 73-2. 27(10H, m), 2. 70-2. 78(2H, m), 3. 24-3. 35(1H, m), 3. 33(2H, s), 3. 42(1H, s), 3. 62-3. 75(1H, m), 6. 26(1H, d, J) = 7. 2Hz), 6. 34(1H, s), 7. 27-7. 40(5H, m), 7. 52-7. 57(2H, m) 低分解能FAB-MS (m/e, (C₂₃H₂₈F₂N₂O₃+H) として): 419

実施例13

構造式

15

5

20 フランー2ーアルデヒドを用い、実施例10工程2と同様の方法にて表題化 合物を製造した。

「H-NMR(CDC1₃、 δ p p m): 1. 35-1. 49(2 H、m), 1. 73-2. 25(10 H, m), 2. 70-2. 80(2 H, m), 3. 23-3. 35(1 H, m), 3. 48(1 H, s), 3. 49(2 H, s), 3. 61-3. 73(1 H, m), 6. 17(1 H, d,J=3. 0 H z), 6. 27-6. 31(2 H, m), 7. 27-7. 38(4 H, m), 7. 52-7. 56(2 H, m)
低分解能FAB-MS(m/e、(C₂₃H₂₈F₂N₂O₃+H)として): 419

実施例14

(2R) -N-[1-(2-ピリジルメチル) ピペリジン-4-イル] - 2-[(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシー2-フェニルアセトアミド

5 構造式

10

ピリジンー2ーアルデヒドを用い、実施例10工程2と同様の方法にて表題 化合物を製造した。

'H-NMR (CDC1₃, δppm): 1.39-1.52 (2H, m).1.75-2.25 (10H, m), 2.70-2.80 (2H, m), 3.24-3.36 (1H, m), 3.58 (1H, s), 3.61 (2H, s), 3.67-3.77 (1H, m), 6.32 (1H, d, J=7.8Hz), 7.15 (1H, ddd, J=1.2Hz, 4.8Hz, 7.6Hz), 7.27-7.39 (4H, m), 7.53-7.57 (2H, m), 7.63 (1H, td, J=1.8Hz, 7.6Hz), 8.52 (1H, ddd, J=1.2Hz, 1.8Hz, 7.6Hz), 低分解能FAB-MS (m/e, (C₂₄H₂₉F₂N₃O₂+H) として): 430

25 実施例15

(2R) -N-[1-(3-メトキシベンジル) ピペリジン-4-イル] - 2-[(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシー 2-フェニルアセトアミド

構造式

10

¹H-NMR (CDC1₃, δppm): 1. 32-1. 54 (2H, m), 1. 65-2. 30 (10H, m), 2. 68-2. 85 (2H, m), 3. 21-3. 39 (1H, m), 3. 42 (1H, s) 3. 45 (2H, s), 3. 62-3. 78 (1H, m), 3. 80 (3H, s), 6. 27 (1H, d, J=8. 2Hz), 6. 76-6. 83 (1H, m), 6. 84-6. 90 (2H, m), 7. 21 (1H, t, J=8. 0Hz), 7. 24-7. 40 (3H, m), 7. 51-7. 59 (2H, m)

低分解能 FAB-MS (m/e, (C₂₆H₃₂F₂N₂O₃+H) ⁺として) : 459

25

実施例16

(2R) -N-(1-ベンジルピペリジン-4-イル) -2-[(1R)-3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド

30 構造式

臭化ベンジルを用い、実施例15と同様の方法にて表題化合物を製造した。
'H-NMR (CDC1₃、δppm): 1.35-1.52(2H,m), 1.70-2.23(10H,m), 2.70-2.81(2H,m), 3.22-3.34(1H,m), 3.41(1H,s)3.48
(2H,s), 3.60-3.80(1H,m), 6.27(1H,d,J=8.0Hz), 7.24-7.39(8H,m), 7.54-7.56
(2H,m)

低分解能FAB-MS $(m/e, (C_{25}H_{30}F_2N_2O_2+H)$ として): 429

実施例 17

構造式

25

30

20

塩化3ーフルオロベンジルを用い、実施例15と同様の方法にて表題化合物を製造した。

 $^{1}H-NMR$ (CDCl₃, δ ppm): 1. 34-1. 52 (2H, m), 1. 52-2. 30 (10H, m), 2. 65-2. 80 (2H, m), 3. 22-3. 38 (1H, m), 3. 40 (1H, s) 3. 72 (2H, s), 3. 60-3. 80 (1H, m), 6. 28 (1H, d, J=7. 7Hz), 6. 88-6. 97 (1H, m), 7. 00-7. 10 (2H, m), 7. 20-7. 42 (4H, m), 7. 51-7. 60 (2H, m)

低分解能FAB-MS $(m/e, (C_{25}H_{29}F_3N_2O_2+H)$ 'として) : 447

10

5

実施例18

(2R) -N-[1-(3-)000ペンジル) ピペリジン-4-イル] - 2-[(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシー2-フェニルアセトアミド

15 構造式

20

塩化3ークロロベンジルを用い、実施例15と同様の方法にて表題化合物を 製造した。

「H-NMR (CDC1₃, δppm): 1.33-1.50 (2H, m), 1.60-2.25 (10H, m), 2.67-2.77 (2H, m), 3.24-3.38 (1H, m), 3.44 (2H, s) 3.63-3.76 (1H, m), 6.29 (1H, d, J=8.0Hz), 7.13-7.40 (7H, m), 7.53-7.57 (2H, m) 低分解能FAB-MS (m/e, (C₂₅H₂₉C1F₂N₂O₂+H) として): 463

実施例 19

(2R) -N-[1-(2-チェニルメチル) ピペリジン-4-イル] - 2-[(1R) -3、3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシー 2-フェニルアセトアミド

構造式

塩化2ーチェニルメチルを用い、実施例15と同様の方法にて表題化合物を 製造した。

1H-NMR (CDCl₃, δppm): 1.32-1.50(2H, m), 1.52-2.30(10H, m), 2.70-2.82(2H, m), 3.22-3.36(1H, m), 3.41(1H, s)3.62-3.76(1H, m), 3.68(2H, s), 6.26(1H, d, J=7.9Hz), 6.87(1H, dd, J=3.2Hz, 4.8Hz).

6.92(1H, dd, J=3.2Hz, 4.8Hz)7.21(1H, dd, J=1.5Hz, 4.8Hz), 7.24-7.40(3H, m), 7.50-7.58(2H, m)

低分解能FAB-MS (m/e, (C₂₃H₂₈F₂N₂O₂S+H) 'として): 435

実施例20.

25

(2R) -N-[1-(6-アミノピリジン-2-イルメチル) ピペリジン-4-イル] <math>-2-[(1R)-3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド・二塩酸塩

30 構造式

10

15

20

25

30

実施例20の化合物は以下の製造法-1、2及び3の方法で製造した。 製造法-1

工程1. <u>6-tertーブチルジフェニルシリルオキシメチルピリジン-</u>2-カルボン酸の合成

6ーヒドロキシメチルピリジンー2ーカルボン酸エチル1.8gのN,Nージメチルホルムアミド55ml溶液に氷冷下、イミダゾール1.4g、塩化tertーブチルジフェニルシラン3.9gを順次加え室温にて12時間撹拌した。反応液を酢酸エチルにて希釈し、飽和重曹水、水、飽和食塩水にて順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し得られた残渣をメタノール60mlに溶解し、4N水酸化ナトリウム水溶液7.5mlを加えて室温にて20時間さらに60度にて2時間撹拌した。メタノールを減圧留去し得られた残渣を1N塩酸にて酸性とした後、クロロホルムにて抽出し、水、飽和食塩水にて順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(展開溶媒:ヘキサン/酢酸エチル=4/1)にて精製し、表題化合物895mgを白色固体として得た。

工程2. 6-tert-ブチルオキシカルボニルアミノピリジン-2-4ルメチル tert-ブチルジフェニルシリルエーテルの合成

工程1で得た6ーtertーブチルジフェニルシリルオキシメチルピリジンー2ーカルボン酸890mgのトルエン30ml溶液に室温にて、トリエチルアミン0.63ml、tertーブタノール3.2ml、ジフェニルホスホリルアジド887mgを順次加え100度にて16時間加熱撹拌した。反応液を酢酸エチルにて希釈し、飽和重曹水、10%クエン酸水溶液、水、飽和食塩水にて順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留

15

20

去し得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(展開溶媒: $^+$ サン/酢酸エチル= 4/1)にて精製し、表題化合物 863 mg を油状物質 として得た。

工程3. 6-tertーブチルオキシカルボニルアミノピリジンー2-メタ ノールの合成

工程2で得た6-tertーブチルオキシカルボニルアミノピリジン-2-イルメチル tertーブチルジフェニルシリルエーテルを用い、実施例5 工程3と同様の方法にて表題化合物を製造した。

工程4. <u>6-tertープチルオキシカルボニルアミノピリジン-2-イル</u> メチル メタンスルホネートの合成

工程3で得た6ーtertーブチルオキシカルボニルアミノピリジンー2ーメタノール61mgのクロロホルム2m1溶液に氷冷下、トリエチルアミン0.19ml、塩化メタンスルホニル0.032mlを加え同温にて1時間 撹拌した。反応液を酢酸エチルにて希釈し、飽和重曹水、水、飽和食塩水にて順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥し、溶媒を減圧留去し、表題化合物124mgを油状物質として得た。

工程5. (2R) -N-[1-(6-tert-ブチルオキシカルボニルア ミノピリジン-2-イルメチル) ピペリジン-4-イル] -2- [(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミドの合成

工程4で得た6-tertーブチルオキシカルボニルアミノピリジンー2-イルメチル メタンスルホネートを用い、実施例15と同様の方法にて表題 化合物を製造した。

工程6. (2R) -N- [1-(6-アミノピリジン-2-イルメチル) ピペリジン-4-イル] -2- [(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミドの合成

工程5で得た (2R) -N-[1-(6-tert-ブチルオキシカルボニルアミノピリジン-2-イルメチル) ピペリジン-4-イル] -2-[(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド を常法に従って塩酸で処理することにより表題化合

物を白色固体として得た。

 $^{1}H-NMR$ (CD₃OD, δ ppm) : 1. 76-2. 14 (10H,

m), 3. 20-3. 63 (5H, m), 3. 85-4. 00 (1H,

m), 4.44 (2H, s), 7.07-7.34 (2H, m), 7.

5 25-7.34 (3H, m), 7.58-7.60 (2H, m), 7.89-7.94 (1H, m)

低分解能FAB-MS $(m/e, (C_2, H_{30}F_2N_4O_2+H)$ として): 445

10 製造法-2

20

工程 1. <u>6-tertーブチルオキシカルボニルアミノピリジン-2-カルボン酸エチルの合成</u>

6-エトキシカルボニルピリジン-2-カルボン酸を用い、製造法-1の工程2と同様の方法にて表題化合物を製造した。

塩化カルシウム500mgのエタノール10ml溶液に氷冷下水素化ホウ素ナトリウム150mgを加え同温にて15分間撹拌した。反応液に工程1で得た6-tertーブチルオキシカルボニルアミノビリジン-2-カルボン

酸エチル1.1 gを加え室温にて13時間撹拌した。エタノールを減圧留去後クロロホルムー水混液に懸濁し不溶物を濾去した。有機層を水、飽和食塩水にて順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥し表題化合物996mgを淡黄色油状物質として得た。

工程3. <u>4-tert-ブチルオキシカルボニルアミノー1-(6-</u> <u>tert-ブチルオキシカルボニルアミノピリジン-2-イルメチル) ピペリジンの合成</u>

工程2で得た6-tertーブチルオキシカルボニルアミノピリジン-2-メタノール及び4-tertーブチルオキシカルボニルアミノピペリジンを用い、製造法-1の工程4-5と同様の方法にて表題化合物を製造した。

30 工程4. <u>(2R) -N-[1-(6-アミノピリジン-2-イルメチル)</u>ピ

10

15

20

ペリジン-4-4(1 R) -3, 3-37ルオロシクロペンチル] -2-11 ドロキシー2-12 ドロキシー2-13 ドの合成

工程3で得た4ーtertーブチルオキシカルボニルアミノー1ー(6ーtertーブチルオキシカルボニルアミノピリジンー2ーイルメチル)ピペリジン163mgを10%ー塩酸メタノール5m1に溶解し40℃にて13時間攪拌した。メタノールを減圧留去し得られた残渣のクロロホルム15m1懸濁液に氷冷下トリエチルアミン0.16m1、(2R)ー2ー[(1R)ー3,3ージフルオロシクロペンチル]ー2ーヒドロキシー2ーフェニル酢酸86mg、ヒドロキシベンゾトリアゾール114mg及び1ーエチルー3ー(3ージメチルアミノプロピル)カルボジイミド75mgを順次加え、室温にて1.5時間攪拌した。反応液をジエチルエーテルにて希釈し飽和重曹水、飽和食塩水で順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し、得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(展開溶媒:クロロホルム/メタノール=50/1~20/1)にて精製し、表題化合物101mgを白色固体として得た。

'H-NMR (CDCl₃, δ ppm): 1. 35-1. 51 (2H, m), 1. 70-2. 25 (1OH, m), 2. 68-2. 80 (2H, m), 3. 21-3. 35 (1H, m), 3. 41 (2H, s), 3. 52 (1H, brs), 3. 62-3. 77 (1H, m), 4. 40 (2H, brs), 6. 28 (1H, d, J=8. 2Hz), 6. 36 (1H, d, J=8. 2Hz), 6. 36 (1H, d, J=8. 2Hz), 6. 67 (1H, d, J=7. 3Hz), 7. 27-7. 40 (4H, m), 7. 53-7. 57 (2H, m) 工程5. (2R) -N-[1-(6-T)]UUU-2-4NUUUU

ペリジンー4ーイル] -2- [(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシー2-フェニルアセトアミド・2塩酸塩の合成工程4で得られた(2R) -N-[1-(6-アミノピリジン-2-イルメチル) ピペリジンー4ーイル] -2- [(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシー2-フェニルアセトアミドを常法により塩酸で処理することにより表題化合物を製造した。

<u>製造法-3</u>

工程1. <u>2-tertーブチルオキシカルボニルアミノー6-メチルピリジンの合成</u>

6ーメチルー2ーアミノピリジン2gのクロロホルム30m1溶液に室温にてジtertーブチルオキシジカルボネート5gを加えた後70℃に加温して4ージメチルアミノピリジン2.5gを加え同温にて2時間撹拌した。溶媒を減圧留去し得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(展開溶媒:ヘキサン/酢酸エチル=20/1)にて精製し、表題化合物4.1gを白色固体として得た。

工程2. (2R) -N- [1-(6-アミノピリジン-2-イルメチル) ピペリジン-4-イル] -2- [(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシー2-フェニルアセトアミド・二塩酸塩の合成工程1で得た2-tertーブチルオキシカルボニルアミノー6ーメチルピリジン100mgの四塩化炭素3ml溶液に室温にて、Nープロモコハク酸イミド90mg過酸化ベンゾイル10mgを順次加え6時間還流下撹拌した。不溶物を濾去後溶媒を減圧留去し得られた残渣及び4-tertーブチルオキシカルボニルアミノピリジンを用い、製造法-1の工程5及び製造法-2の工程4-5と同様の方法にて表題化合物を製造した。

20 実施例21

(2R) -N- [1- (6-アミノー4-メトキシピリジン-2-イルメチル) ピペリジン-4-イル] -2- [(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド・二塩酸塩 構造式

6-ヒドロキシメチルー4ーメトキシピリジンー2ーカルボン酸エチルを用い、実施例20と同様の方法にて表題化合物を製造した。

「H-NMR (CD₃OD, δ ppm): 1. 69-2. 21 (10H, m), 3. 10-3. 70 (5H, m), 3. 83-3. 97 (1H, m), 3. 98 (3H, s), 4. 30-4. 46 (2H, m), 6. 39-6. 47 (1H, m), 6. 74-6. 89 (1H, m), 7. 20-7. 38 (3H, m), 7. 58 (2H, d, J=6. 9Hz) 低分解能FAB-MS (m/e, (C₂₅H₃₂F₂N₄O₃+H) なして): 475

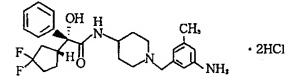
15

10

実施例22

(2R) -N-[1-(3-アミノー5-メチルベンジル) ピペリジンー <math>4-4ル] -2-[(1R)-3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシー2-フェニルアセトアミド・二塩酸塩

20 構造式



25

30

工程 1. N- (tert-ブチルオキシカルボニル) -3, 5-ジメチルア ニリンの合成

3, 5ージメチルアニリン1. 2gのジオキサン20m1-10%水酸化ナトリウム水溶液10ml混液にジtertーブチルージカルボネート2.

7 gを加え、100度にて1.5時間加熱攪拌した。反応液をジエチルエーテルにて希釈し水、飽和食塩水で順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(展開溶媒:ヘキサン/酢酸エチル=9/1)にて精製し表題化合物1.

5 8 gを油状物質として得た。

工程 2. <u>臭化 3 - (tert-ブチルオキシカルボニルアミノ) - 5 - メ</u> チルベンジルの合成

工程1で得たN-(tert-ブチルオキシカルボニル)-3,5-ジメチルアニリン1.8gの四塩化炭素20m1溶液にN-ブロモこはく酸イミド1.5g、2,2'-アゾビス(イソブチロニトリル)53mgを順次加え、100度にて3時間加熱攪拌した。反応液をヘキサンにて希釈して濾過し、溶媒を減圧留去し表題化合物2.8gを油状物質として得た。

工程3. (2R) -N-[1-(3-アミノ-5-メチルベンジル) ピペリジンー4ーイル] -2-[(1R)-3,3-ジフルオロシクロペンチ

15 <u>ル] -2-ヒドロキシー2-フェニルアセトアミド二塩酸塩の合成</u> 工程2で得た臭化 3-(tertーブチルオキシカルボニルアミノ)-5-メチルベンジルを用い、実施例20の製造法-1の工程5、6と同様の方法にて表題化合物を製造した。

'H-NMR (CD₃OD, δppm): 1. 66-2. 11 (12H, m), 2. 99-3. 48 (3H, m), 3. 26 (3H, s), 3. 78-3. 98 (1H, m), 4. 28 (2H, s), 7. 18-7. 60 (8H, m)

低分解能 FAB-MS(m/e, ($C_{26}H_{33}F_2N_3O_2+H$) さして): 458

実施例23

(2R) - N - [1 - (3 - 7 ミノベンジル) ピペリジン - 4 - 4 - 1 - 2 - [(1R) - 3, 3 - ジフルオロシクロペンチル] - 2 - ヒドロキシー 2 - フェニルアセトアミド

30 構造式

15

20

25

10 塩化3-ニトロベンジルを用い、実施例15と同様の方法にて表題化合物を 製造した。

工程2. $(2R) - N - [1 - (3 - T \ge J \land \nu)]$ ピペリジンー4ーイル] $-2 - [(1R) - 3, 3 - \Im \nu]$ ルオロシクロペンチル] -2 - E キシー2ーフェニルアセトアミドの合成

工程1で得た(2R) -N-[1-(3--1)-(3

'H-NMR (CDC1₃, δ ppm): 1. 30-1. 48 (2H, m), 1. 50-2. 25 (10H, m), 2. 68-2. 78 (2H, m), 3. 24-3. 40 (1H, m), 3. 38 (2H, s), 3. 43 (1H, s), 3. 52-3. 80 (1H, m), 6. 26 (1H, d, J=7. 9Hz), 6. 57 (1H, dd, J=1. 5Hz, 7. 8Hz). 6. 65 (1H, d, J=1. 5Hz), 6. 66 (1H, d, J=7. 8Hz), 7. 08 (1H, t, J=7. 8Hz), 7. 28-7. 39 (3H, m), 7. 53-7. 57 (2H, m)

30 低分解能 FAB-MS (m/e, (C₂₅H₃₁F₂N₃O₂+H) 'として):

4 4 4

実施例24

構造式

OH H F HO NH.

塩化2ーニトロベンジルを用い、実施例23と同様の方法により、表題化合物(遊離塩基)を得、塩酸処理により表題化合物を得た。

'H-NMR (CD₃OD, δ ppm): 1.50-1.95 (10H, m), 2.92-3.07 (2H, m), 3.07-3.20 (1H, m), 3.24-3.38 (2H, m), 3.67-3.80 (1H, m), 4.15-4.27 (2H, m), 7.05-7.45 (9H, m) 低分解能FAB-MS (m/e, (C₂₅H₃₁F₂N₃O₂+H) として): 444

実施例25

 (2R) -N- [1- (4-アミノベンジル) ピペリジンー4-イル]

 25
 2- [(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシー

 2-フェニルアセトアミド

 構造式

15

10

15

20

塩化4-二トロベンジルを用い、実施例23と同様の方法にて表題化合物を 製造した。

「H-NMR (CDC1₃, るppm) : 1. 35-1. 52 (2 H.m), 1. 70-2. 23 (10 H, m), 2. 70-2. 82 (2 H, m), 3. 23-3. 35 (1 H, m), 3. 41 (2 H, s), 3. 30-3. 70 (3 H, m), 3. 65-3. 75 (1 H, m), 6. 29 (1 H, d, J=7. 4 Hz), 6. 63 (2 H, d, J=8. 5 Hz), 7. 06 (2 H, d, J=8. 5 Hz), 7. 28-7. 39 (3 H, m), 7. 52-7. 56 (2 H, m) 低分解能FAB-MS (m/e, ($C_{25}H_{31}F_{2}N_{3}O_{2}+H$) たして) : 444

実施例26

(2R) -N- [1-(4-アミノ-3-メトキシベンジル) ピペリジン-4-イル] -2- [(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド 構造式

25

塩化 3-メトキシー4-二トロベンジルを用い、実施例23と同様の方法 にて表題化合物を製造した。

'H-NMR (CDCl₃、 δ ppm) : 1. 35-1. 60 (2H, m), 1. 70-2. 30 (10H, m), 2. 70-2. 90 (2H, m), 3. 22-3. 38 (1H, m), 3. 44 (2H, s), 3. 40-3. 60 (1H, m), 3. 62-3. 85 (3H, m), 3. 85 (3H, s), 6. 36 (1H, d, J=7. 9Hz), 6. 60-6. 70 (2H, m), 6. 81 (1H, s), 7. 24-7. 40 (3H, m), 7. 51-7. 58 (2H, m) 低分解能FAB-MS (m/e, (C₂₆H₃₃F₂N₃O₃+H) として): 474

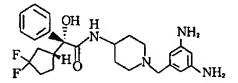
10

5

実施例27

(2 R) -N-[1-(3,5-ジアミノベンジル) ピペリジン-4-イル] -2-[(1 R) -3,3-ジフルオロシクロペンチル] <math>-2-上ドロキシ-2-フェニルアセトアミド

15 構造式



20

25

塩化3.5-ジニトロベンジルを用い、実施例23と同様の方法にて表題化 合物を製造した。

'H-NMR (CDCl₃, δ ppm): 1. 30-2. 20 (12H, m), 2. 70-2. 80 (2H, m), 3. 23-3. 36 (1H, m), 3. 28 (2H, s), 3. 44 (1H, s), 3. 60-3. 73 (1H, m), 5. 93 (1H, t, J=2. 0Hz), 6. 07 (2H, d, J=2. 0Hz), 6. 23 (1H, d, J=7. 5Hz), 7. 29-7. 40 (3H, m), 7. 53-7. 57 (2H, m)

30 低分解能FAB-MS (m/e, (C25H32F2N4O2+H) として):

4 5 9

実施例28

(2R) -N-[1-(5-メチルフラン-2-イルメチル) ピペリジン-4-イル] <math>-2-[(1R)-3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド

構造式

15

20

25

30

OH H

工程1. 4-(tert-ブチルオキシカルボニルアミノ) -1-(5-メチル-2-フリルメチル) ピペリジンの合成

4-(tert-ブチルオキシカルボニルアミノ)ピペリジン200mgのテトラヒドロフラン溶液5mlに室温下5-メチルフラン-3-アルデヒド0.1ml、酢酸0.06ml及び水素化トリアセトキシホウ素ナトリウム318mgを加え、12時間攪拌した。反応液に飽和重曹水を加え、酢酸エチルにて抽出した。抽出液を飽和食塩水にて洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し、残渣を酢酸エチル/n-ヘキサンより再結晶することにより表題化合物198mgを得た。

工程2. (2R) -N-[1-(5-メチル-2-フリルメチル) ピペリジン-4-イル] -2-[(1R)-3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミドの合成

工程1で得た4ー(tertーブチルオキシカルボニルアミノ)ー1ー (5-メチルー2-フリルメチル)ピペリジン88mgに10%の塩酸メタノール溶液2m1を室温下加え、約12時間攪拌し、溶媒を減圧留去した。 得られた残渣のクロロホルム溶液4m1に(2R)-2-[(1R)-3,3-ジフルオロシクロペンチル]-2-ヒドロキシー2-フェニル酢酸

59mg、ヒドロキシベンゾトリアゾール93mg、トリエチルアミン0.2m1及び1ーエチルー3ー(3ージメチルアミノブロピル)カルボジイミド66mgを室温下順次加え、2時間攪拌した。反応液に水を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(展開溶媒:クロロホルム/メタノール=50/1)にて精製し、表題化合物63mgを白色固体として得た。

 $^{1}H-NMR (CDC1_{3}, \delta ppm) : 1. 35-1. 54 (2H, m), 1. 60-2. 25 (10H, m), 2. 27 (3H, s), 2.$ $^{10} 71-2. 86 (2H, m), 3. 22-3. 36 (1H, m), 3. 40 (1H, s), 3. 45 (2H, s), 3. 60-3. 76 (1H, m), 5. 85-5. 90 (1H, m), 6. 05 (1H, d, J=3. 0Hz), 6. 25 (1H, d, J=7. 9Hz), 7. 26-7. 40 (3H, m), 7. 50-7. 56 (2H, m)$

低分解能FAB-MS (m/e, (C₂4H₃oF₂N₂O₃+H) ⁺として): 433

実施例29

 $\frac{(2R) - N - [1 - (3 - \cancel{1} + \cancel{1}$

構造式

工程1. <u>4-(tert-ブチルオキシカルボニルアミノ)-1-(3-メ</u> 30 <u>チルベンジル) ピペリジンの合成</u> 4- (tert-ブチルオキシカルボニルアミノ) ピペリジンと臭化3-メチルベンジルを用いて実施例15と同様の方法にて表題化合物を製造した。 工程2. (2R) -N- [1-(3-メチルベンジル) ピペリジン-4-イル] -2- [(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミドの合成

工程1で得た4-(tert-ブチルオキシカルボニルアミノ)-1-(3-メチルベンジル)ピペリジンを用いて実施例28と同様の方法にて表題化合物を製造した。

'H-NMR (CDC1₃、δppm): 1.24-1.50 (2H, m), 1.50-2.25 (10H, m), 2.33 (3H, s), 2.60-2.82 (2H, m), 3.20-3.55 (3H, m), 3.42 (2H, s), 6.25 (1H, d, J=8.1Hz), 7.00-7.14 (3H, m), 7.19 (1H, t, J=7.6Hz), 7.23-7.42 (3H, m), 7.50-7.60 (2H, m)

低分解能FAB-MS (m/e, (C₂₆H₃₂F₂N₂O₂+H) 'として):

実施例30

4 4 3

(2R) -N-[1-(4-)++)(2) + (2R) -N-[1-(4-)++)(2) + (2R) -N-[1-(4-)++)(2) + (2R) -N-[1-(4-)++)(2) + (2R) + (

構造式

20

pーアニスアルデヒドを用い、実施例10工程2と同様の方法にて表題化合物を製造した。

'H-NMR (CDC1₃、 δ ppm) : 1. 32-1. 47 (2H,m), 1. 75-2. 23 (10H,m), 2. 65-2. 76 (2H,m), 3. 22-3. 36 (1H,m), 3. 42 (2H,s). 3. 46 (1H,s), 3. 63-3. 76 (1H,m), 3. 79 (3H,s). 6. 27 (1H,d,J=8. 2Hz), 6. 84 (2H,d,J=8. 6Hz), 7. 19 (2H,d,J=8. 6Hz), 7. 28-7. 39 (3H,m), 7. 52-7. 56 (2H,m) 低分解能FAB-MS (m/e. (C₂₆H₃₂F₂N₂O₃+H) として) : 459

10

5

実施例31

15 構造式

20

25

30

工程 1. 3-t e r t ープチルオキシカルボニルアミノー5ーメトキシ安息 香酸メチルの合成

3ーメトキシー5ーニトロ安息香酸メチル864mgのメタノール15ml溶液に、ジtertーブチルージカルボネート1.0g、10%パラジウムー炭素912mgを加え水素雰囲気下室温にて7時間撹拌した。反応液をセライト濾過し溶媒を減圧留去して、表題化合物1.28gを白色固体として得た。

工程2. <u>3-tertーブチルオキシカルボニルアミノー5-メトキシベンジルアルコールの合成</u>

工程1で得た3-tert-ブトキシカルボニルアミノー5-メトキシ安息香酸メチル1.28gのトルエン8ml溶液に-78℃下、1.0M水素化ジイソブチルアルミニウムテトラヒドロフラン溶液12.1mlを加え同温にて1時間撹拌した。反応液を酢酸エチルにて希釈し、水、飽和食塩水にて順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(展開溶媒:ヘキサン/酢酸エチル=7/3)にて精製し、表題化合物262mgを油状物質として得た。工程3.3-tert-ブチルオキシカルボニルアミノー5-メトキシベンズアルデヒドの合成

10 工程2で得た3-tertーブチルオキシカルボニルアミノー5ーメトキシベンジルアルコール194mgのクロロホルム10ml溶液に室温にて、二酸化マンガン1.89gを加え2時間撹拌した。反応液をセライト濾過し溶媒を減圧留去して、表題化合物132mgを油状物質として得た。

工程4. (2R) -N- [1-(3-アミノ-5-メトキシベンジル) ピペリジン-4-イル] -2- [(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド・二塩酸塩の合成工程3で得た3-tertーブチルオキシカルボニルアミノー5-メトキシベンズアルデヒドを用い、実施例10工程2及び実施例20の製造法-1の工程6と同様の方法にて表題化合物を製造した。

 1 H-NMR (CD₃OD, δppm) : 1. 74-2. 14 (10H, m) , 3. 00-3. 15 (2H, m) , 3. 27-3. 52 (3H, m) , 3. 82-3. 92 (1H, m) , 3. 89 (3H, s) 4. 32 (2H, s) , 7. 01 (1H, s) , 7. 18-7. 35 (5H, m) , 7. 56-7. 60 (2H, m)

低分解能FAB-MS(m/e, ($C_{26}H_{33}F_2N_3O_3+H$) さして): 474

実施例32

30

<u>ヒドロキシー2ーフェニルアセトアミド</u> 構造式

5

10

15

20

25

3-フルオロー4-アミノトルエンを用い、実施例22と同様の方法にて表 題化合物を製造した。

¹H-NMR (CDC1₃, δ ppm): 1. 28-1. 50 (2H, m), 1. 50-2. 32 (10H, m), 2. 60-2. 80 (2H, m), 3. 20-3. 38 (1H, m), 3. 33 (2H, s), 3. 45 (1H, s), 3. 55-376 (3H, m), 6. 25 (1H, d, J=8. 2Hz), 6. 69 (1H, dd, J=8. 1, 8. 9Hz), 6. 82 (1H, dd, J=1. 6, 8. 1Hz), 6. 93 (1H, dd, J=1. 6. 12. 0Hz), 7. 24-7. 40 (3H, m), 7. 50-7. 58 (2H, m)

低分解能FAB-MS $(m/e, (C_{25}H_{30}F_3N_3O_2+H)^{-1}$ として): 462

実施例33

10

20

25

工程1. <u>6-クロロメチルー4-メチルー2-アセチルアミノピリジンの合</u> <u>成</u>

6ーアセチルアミノー4ーメチルピリジンー2ーメタノール23mgのクロロホルム2ml溶液に室温下塩化チオニル0.05mlを加え、15分間還流下攪拌した。溶媒を減圧留去して表題化合物を得た。

工程2. (2R) -N-[1-(6-rセチルアミノー4-メチルピリジ <math>2-2-7 2-7

15 工程1で得た6ークロロメチルー4ーメチルー2ーアセチルアミノピリジンを用い、実施例15と同様の方法にて表題化合物を製造した。

工程2で得た(2R)-N-[1-(6-rセチルアミノー4-メチルピリジン-2-イル)ピペリジン-4-イル]-2-[(1R)-3,3-ジフルオロシクロペンチル]-2-ヒドロキシー2-フェニルアセトアミド16.5 mgのメタノール1m1溶液に3M水酸化ナトリウム水溶液0.5 m1を加え、<math>60 Cにて1.5 時間加熱攪拌した。反応液をジエチルエー

テルにて希釈し水、飽和食塩水にて順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し得られた残渣を分取用薄層クロマトグラフィー (Kieselgel TM 60 F_{254} 、Art5744 (メルク社製) クロロホルム/メタノール=10/1) にて精製し、表題化合物14mgを油状物質として得た。

 $^{1}H-NMR$ (CDC1₃, δ ppm) : 1. 30-1. 50 (2H,

m), 1. 71-2. 30(10H, m), 2. 33(3H, s), 2. 62-2. 76(2H, m), 3. 21-3. 38(1H, m), 3. 29(2H, s), 3. 60-3. 78(1H, m), 4. 35-4. 51(2H, m), 6. 26(1H, s), 6. 35(1H, d), J=8. 1Hz), 6. 45(1H, s), 7. 25-7. 40(3H, m), 7. 52-7. 60(2H, m) 低分解能FAB-MS(m/e, (C₂₅H₃₂F₂N₄O₂+H) として): 459

10 実施例34

(2R) -N-[1-(3-アミノ-4-フルオロベンジル) ピペリジンー 4- (1R) -2-[(1R) -3, 3- ジフルオロシクロペンチル] <math>-2- ヒドロキシー2- (1R) -2- (1R)

構造式

15

5

20

25

2-フルオロー5-メチルアニリンを用い、実施例22と同様の方法にて表 題化合物を製造した。

「H-NMR(CD₃OD、 δ ppm): 1. 68-2. 11(10H、m), 3. 00-3. 50(5H, m), 3. 79-3. 90(1H、m), 4. 32(2H, s), 7. 18-7. 30(3H, m), 7. 43(1H, d、J=8. 4Hz), 7. 52-7. 56(2H, m), 7. 57-7. 65(1H, m), 7. 73-7. 78(1H, m) 低分解能FAB-MS(m/e,(C₂₅H₃₀F₃N₃O₂+H)として): 462

実施例35

5 構造式

10

2-フルオロー5-ニトロトルエンを用い、実施例22工程2及び実施例23と同様の方法にて表題化合物を製造した。

「H-NMR(CDC1₃、 δ p p m):1.36-1.49(2 H,m),1.57-2.26(10 H,m),2.71-2.78(2 H,m),3.24-3.36(1 H,m),3.42-3.57(5 H,m),3.66-3.75(1 H,m),6.24(1 H,d,J=8.1 H z),6.51-6.56(1 H,m),6.65-6.68(1 H,m),6.82(1 H,t,J=9.0 H z),7.29-7.40(3 H,m),7.53-7.57(2 H,m)
低分解能FAB-MS(m/e,(C₂₅H₃₀F₃N₃O₂+H)として):462

実施例36

 (2R) -N- [1-(2-アミノー4ークロロピリジンー6ーイルメチル) ピペリジンー4ーイル] -2- [(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシー2-フェニルアセトアミド構造式

10

4ークロロー6ーヒドロキシメチルピリジンー2ーカルボン酸メチルを用い、実施例20の製造法-2と同様の方法にて表題化合物を製造した。

 $^{1}H-NMR$ (CDC 1_{3} , δ ppm) : 1. 42-1. 54 (2 H,

m), 1. 78-2. 26 (10H, m), 2. 76-2. 79 (2H,

m) , 3. 28-3. 38 (1 H, m) , 3. 42-3. 47 (3 H,

m), 3. 67-3. 75 (1 H, m), 4. 53-4. 56 (2 H,

m), 6. 36 (1 H, d, J = 7. 2 Hz), 6. 38 (1 H, d, J = 1. 6 Hz), 6. 72 (1 H, d, J = 1. 6 Hz), 7. 25 \sim 7.

39 (3H, m), 7. 53-7. 57 (2H, m)

低分解能FAB-MS (m/e, (C₂₄H₂₉C1F₂N₄O₂+H) として):479

実施例37

構造式

25

20

工程1. <u>3-クロロー5ーニトロベンジル メタンスルホネートの合成</u>
 3ークロロー5ーニトロベンジルアルコール92mgのクロロホルム3ml

10

15

20

溶液に室温にてトリエチルアミン0.3ml及び塩化メタンスルホネート 0.1mlを加え、40分間撹拌した後飽和重曹水を加え、更に30分間撹拌した。反応液をジエチルエーテルにて希釈し飽和重曹水、飽和食塩水で順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し表題化合物 119mgを油状物質として得た。

工程1で得た3-クロロー5-ニトロベンジル メタンスルホネートを用い、実施例23と同様の方法にて表題化合物を製造した。

'H-NMR (CDC1₃, δ ppm): 1. 30-1. 44 (2H, m), 1. 73-2. 22 (10H, m), 2. 68-2. 73 (2H, m), 3. 24-3. 36 (1H, m), 3. 32 (2H, s), 3. 44 (1H, brs), 3. 61-3. 77 (3H, m), 6. 28 (1H, d, J=8. 4Hz), 6. 49 (1H, d, J=1. 9Hz), 6. 55 (1H, dd, J=1. 7, 1. 9Hz), 6. 66 (1H, d, J=1. 7Hz), 7. 29-7. 39 (3H, m), 7. 53-7. 56 (2H, m)

低分解能FAB-MS $(m/e, (C_{25}H_{30}ClF_2N_8O_2+H)^-$ として):459

実施例38

10

4ーアミノー3, 5ージフルオロベンズアルデヒドを用い、実施例10工程 2と同様の方法にて表題化合物を製造した。

「H-NMR (CDC1₃、 δ p p m) : 1. 24-2. 22 (12H, m), 2. 66-2. 72 (2H, m), 3. 27-3. 41 (4H, m), 3. 66-3. 71 (3H, m), 6. 28 (1H, d, J=7. 8Hz), 6. 77 (2H, d, J=8. 3Hz), 7. 28-7. 39 (3H, m), 7. 54-7. 56 (2H, m) 低分解能FAB-MS (m/e, (C₂₅H₂₉F₄N₃O₂+H) として) :

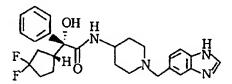
15

実施例39

480

(2R) -N - [1 - (ベンズイミグゾールー5 - イルメチル) ピペリジンー4 - イル] -2 - [(1R) -3, 3 - ジフルオロシクロペンチル] -2 - ヒドロキシー2 - フェニルアセトアミド

20 構造式



25

ベンズイミダゾールー5ーカルバアルデヒドを用い、実施例10工程2と同様の方法にて表題化合物を製造した。

'H-NMR (CD₃OD, δ ppm): 1. 45-2. 25 (10H, m). 2. 25-2. 48 (2H, m), 2. 90-3. 10 (2H,

10

15

20

25

m), 3. 20-3. 42 (1H, m), 3. 56-3. 75 (1H, m), 3. 82 (2H, s), 7. 18-7. 40 (4H, m), 7. 51-7. 75 (4H, m), 8. 17 (1H, s) 低分解能FAB-MS (m/e, (C₂₆H₃₀F₂N₄O₂+H) として): 469

実施例40

(2R) -N - [1 - (6 - T - 1)] + (6 - T - 1) + (1 - 1) + (1 - 1) + (2 - 1) +

構造式

(2R) - (3, 3-ジフルオロシクロブチル) - 2-ヒドロキシフェニル 酢酸と4-アミノー1-(6-アミノピリジン-2-イルメチル) ピペリジン・3塩酸塩を用い、実施例20の製造法-2の工程4と同様の方法にて表 題化合物を製造した。

 $^{1}H-NMR$ (CDC1₃, δ ppm) : 1. 20-1. 52 (2H, m), 1. 60-1. 86 (2H, m), 2. 08-2. 22 (2H, m), 2. 40-2. 82 (6H, m), 3. 07-3. 21 (1H, m), 3. 41 (2H, s), 3. 60-3. 80 (1H, m), 3. 84 (1H, brs), 4. 40 (2H, brs), 6. 01 (1H, d, J=8. 1Hz), 6. 36 (1H, d, J=8. 2Hz), 6. 66 (1H, d, J=8. 2Hz), 7. 28-7. 42 (4H, m), 7. 43-7. 50 (2H, m)

30 低分解能FAB-MS (m/e, (C23H28F2N4O2+H) として):

実施例41

(2R) -N-[1-(6-r)] (2R) -N-[1-(6-r)] (2R) (2R)

構造式

5

15

10 OH H

(2R) - (4, 4-ジフルオロシクロヘキシル) - 2-ヒドロキシフェニル酢酸と4-アミノー1-(6-アミノピリジン-2-イルメチル) ピペリジン・3塩酸塩を用い、実施例20の製造法-2の工程4と同様の方法にて表題化合物を製造した。

 $^{1}H-NMR$ (CDC1₃, δ ppm) : 1. 20-1. 97 (10H, m), 1. 97-2. 22 (4H, m), 2. 44-2. 68 (1H, m), 2. 70-2. 92 (3H, m), 3. 42 (2H, s), 3. 62-3. 80 (1H, m), 4. 42 (2H, brs), 6. 36 (1H, d, J=8. 2Hz), 6. 62 (1H, d, J=7. 9Hz), 6. 67 (1H, d, J=8. 2Hz), 7. 24-7. 42 (4H, m), 7. 55-7. 62 (2H, m)

25 低分解能FAB-MS $(m/e, (C_{25}H_{32}F_2N_4O_2+H)$ として) : 459

実施例 4 2

 $\frac{(2 R) - N - [1 - (6 - 7 \xi / \xi') \xi') - 2 - 4 - 4 \nu + 4 \nu}{2 - 2 - 2 - 4 \nu + 4 \nu} - \frac{(1 R) - 3}{3 - 3 \nu + 4 \nu} - \frac{(2 R) - 1}{3 - 4 \nu} - \frac{(1 R) - 3}{3 - 3 \nu} - \frac{3 - 3 \nu}{3 \nu} - \frac{3 \nu}{3 \nu$

2- (4-フルオロフェニル) -2-ヒドロキシアセトアミド 構造式

(2R) - (3, 3-ジフルオロシクロペンチル) - 2- (4-フルオロフ 10 ェニル) - 2-ヒドロキシ酢酸を用い、実施例20の製造法-1と同様の方 法にて表題化合物を製造した。

'H-NMR (CDCl₃, δ ppm): 1. 39-1. 55 (2H, m), 1. 70-2. 22 (10H, m), 2. 73-2. 81 (2H, m), 3. 23-3. 36 (1H, m), 3. 43 (2H, s), 3. 65-3. 77 (1H, m), 4. 43 (2H, brs), 6. 31 (1H, d, J=7. 6Hz), 6. 37 (1H, d, J=8. 2Hz), 6. 67 (1H, d, J=7. 4Hz), 7. 01-7. 08 (2H, m), 7. 37 (1H, dd, J=7. 4, 8. 2Hz), 7. 51-7. 58 (2H, m)

近分解能FAB-MS (m/e, ($C_{24}H_{29}F_{3}N_{4}O_{2}+H$) さして): 463

参考例1

15

25

(2R) - [(1R) - 3 - オキソシクロペンチル] - 2 - ヒドロキシ-2-フェニル酢酸

D. ゼーバッハ (Seebach) らの方法 [Tetrahedron、

40巻、1313-1324頁(1984年)]に従って合成した(2R.5R)-2-(tーブチル)ー5ーフェニルー1、3ージオキソランー4ーオン510mgのテトラヒドロフラン20mlーへキサメチルリン酸トリアミド1ml混液に-78℃下リチウムジイソプロピルアミド1.5Mへキサン溶液1.7mlを滴下し、30分間撹拌した後シクロペンテノン285mgのテトラヒドロフラン1.5ml溶液を加え、更に1.5時間撹拌した。反応液を酢酸エチルにて希釈し飽和塩化アンモニウム水溶液、水、飽和食塩水で順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し得られた残渣を中圧シリカゲルカラムクロマトグラフィー(展開溶媒:ヘキサン/酢酸エチル=15/1~10/1)にて精製し表題化合物をそれぞれ150mg、254mg油状物質として得た。それぞれの立体配置はNMRのNOEより決定した。

15 (2 R. 5 R) -2-(t-ブチル) -5-[(1 R) -3-オキソシクロペンチル] -5-フェニルー1.3-ジオキソラン-4-オン61mgのメタノール3m1溶液に1N水酸化ナトリウム水溶液1m1を加え、室温にて3時間撹拌した。メタノールを減圧留去後、残渣を水にて希釈しジエチルエーテル洗浄した。水層を1N塩酸にて酸性としてジエチルエーテル抽出し、有機層を無水硫酸マグネシウムで乾燥して表題化合物48mgを得た。

参考例2

(2R) - [(1S) - 3 - オキソシクロペンチル] - 2 - ヒドロキシー 2 - フェニル酢酸

25 (2R, 5R) -2-(t-ブチル) -5-[(1S) -3-オキソシクロペンチル] -5-フェニル-1, 3-ジオキソラン-4-オンを用い、参考例1工程2と同様の方法にて表題化合物を製造した。

参考例3

キシー2ーフェニル酢酸

5 (2R, 5R) -2-(t-ブチル) -5-[(1R) -3-オキソシクロペンチル] -5-フェニルー1, 3-ジオキソランー4-オン256mgのクロロホルム3ml溶液に氷冷下三フッ化ジエチルアミノ硫酸0.34mlを加え、室温にて20時間撹拌した。反応液をジエチルエーテルにて希釈し、水、飽和食塩水で順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(展開溶媒:ヘキサン/酢酸エチル=20/1)にて精製し表題化合物115mgを得た。

工程2. (2R) - [(1R) - 3, 3 - ジフルオロシクロペンチル] - 2 - ヒドロキシー2 - フェニル酢酸の合成

(2R, 5R) -2-(tープチル) -5-[(1R) -3.3-ジフルオロシクロペンチル] -5-フェニルー1,3-ジオキソランー4ーオンを用い、参考例1工程2と同様の方法にて表題化合物を製造した。

参考例 4

(2R) - [(1S) - 3, 3-ジフルオロシクロペンチル] - 2-ヒドロキシー 2-フェニル酢酸

参考例5

25

の合成

10 (2 R. 5 R) -2-(t-ブチル) -5-[(1 S) -3-ヒドロキシシクロペンチル] -5-フェニルー1, 3-ジオキソランー4-オンを用い、参考例1工程2と同様の方法にて表題化合物を製造した。

参考例6

(2R, 5R) -2-(t-ブチル) -5-[(1R) -3-オキソシク -3-プェニルー1, 3-ジオキソランー4-オンを用い、参 考例 5 と同様の方法にて表題化合物を製造した。

参考例7

20

30

(2R) - [(1S) - 3 - 7 ルオロシクロペンチル] - 2 - ヒドロキシー 2 - フェニル酢酸

(2R) - [(1S) -3-ヒドロキシシクロペンチル] -2-ヒドロキシー2-フェニル酢酸を用い、参考例3と同様の方法にて表題化合物を製造した。

参考例8

(2R) - [(1R) -3-ヒドロキシシクロペンチル] -2-ヒドロキシー2-フェニル酢酸を用い、参考例3と同様の方法にて表題化合物を製造した。

5 参考例 9

10

15

20

2ーシクロペンチルー2ーヒドロキシー2ーフェニル酢酸

フェニルグリオキシル酸エチル23.5gのテトラヒドロフラン200ml溶液に、水冷下2.0Mシクロペンチルマグネシウム クロライド-ジエチルエーテル溶液70mlを滴下し、同温にて30分間撹拌した。 反応液を酢酸エチルにて希釈し、飽和塩化アンモニウム水溶液、飽和食塩水にて洗浄後、無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し得られた 残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (展開溶媒:ヘキサン/酢酸エチル=30/1~20/1) にて精製し、2ーシクロペンチルー2ーヒドロキシー2ーフェニル酢酸エチル11gを得た。これをメタノール40mlに溶解し、室温にて4N水酸化ナトリウム水溶液20mlを加え、同温にて2時間撹拌し50℃にて1時間撹拌した。メタノールを減圧留去後水層を4N塩酸にて弱酸性とし酢酸エチル抽出した。有機層を水、飽和食塩水にて順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し得られた残渣をジエチルエーテル/ヘキサン=1/1にて洗浄し表題化合物8.7gを得た。

参考例10

(2R) - [(1R) - 3, 3 - ジフルオロシクロペンチル] - 2 - ヒドロキシー2 - フェニル酢酸

工程1. (2R, 5R) -2-(t-ブチル) -5-[(1S, 2R, 5R, 6S, 7R) -3-オキソトリシクロ [5. 2. 1. 0^{2.6}] デックー8-エン-5-イル] -5-フェニルー1, 3-ジオキソラン-4-オンの合成

(2R, 5R) -2-(t-ブチル) -5-フェニルー1, 3-ジオキソラ 30 ン-4-オン32gのテトラヒドロフラン1, 11溶液に-78℃下リチウ ムジイソプロピルアミド1. 5 Mへキサン溶液105 m 1 を滴下し、30 分間撹拌した後(1 S. 2 R. 6 S. 7 R)- トリシクロ $[5.2.1.0^2.6]$ デックー4、8 - ジエン- 3 - オン2 3、4 gのテトラヒドロフラン3 0 0 m 1 溶液を加え、更に 1. 5 時間撹拌した。反応液を酢酸エチルにて希釈し飽和塩化アンモニウム水溶液、水、飽和食塩水で順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し得られた残渣をヘキサン- 酢酸エチルにて再結晶し表題化合物 36.9 gを白色固体として得た。

10 <u>オンの合成</u>

5

15

30

工程1で得た (2 R. 5 R) $-2-(t-7+\nu)$ -5-[(1 S. 2 R. 5 R. 6 S. 7 R. 5 R. 6 S. 7 R. 7 R. 7 R. 7 R. 7 R. 8 <math>-1.026 -

工程2で得た(2R, 5R)-2-(tーブチル)-5-[(1S)-4-オキソー2-シクロペンテニル]-5-フェニルー1.3-ジオキソランー4-オン19.1gの酢酸エチル700ml溶液に10%パラジウムー炭素2.0gを加え、水素雰囲気下常温、常圧にて2時間撹拌した。触媒を遮去後溶媒を減圧留去し得られた残渣をヘキサンー酢酸エチルにて再結晶し表題化合物14gを白色固体として得た。

にて洗浄し表題化合物14gを白色固体として得た。

工程 4. (2R) - [(1R) - 3, 3 - ジフルオロシクロペンチル] - 2 - ヒドロキシー 2 - フェニル酢酸の合成

工程3で得た (2R, 5R) -2-(t-ブチル) -5-[(1R) -3- オキソシクロペンチル] -5-フェニルー1. 3-ジオキソランー4ーオンを用い、参考例3と同様の方法にて表題化合物を製造した。

参考例11

(2R) - (3, 3-ジフルオロシクロペンチル) - 2 - (4-フルオロフェニル) -2 - ヒドロキシ酢酸

(R) -4-フルオロマンデル酸を用い、参考例1工程1及び参考例3と同様の方法にて表題化合物を製造した。

参考例12

10

15

20

25

30

(2R) - (3, 3-ジフルオロシクロブチル) -2-ヒドロキシ-2-フェニル酢酸

3-ペンジルオキシシクロブタノンを用い、参考例1工程1と同様の方法に て表題化合物を製造した。

工程2. (2 R, 5 R) -2 - (t - ブチル) -5 - (3 - ベンジルオキシシクロブチル) -5 - フェニルー1, 3 - ジオキソランー4 - オンの合成

工程1で得た(2 R, 5 R) -2 - (t - ブチル) -5 - (3 - ベンジルオキシー1 - ヒドロキシシクロブチル) -5 - フェニルー1, 3 - ジオキソランー4 - オン2. 8 2 gのクロロホルム8 0 m 1 溶液に氷冷下 4 - ジメチルアミノビリジン2. 6 gを加え同温にて1時間撹拌した。反応液にメチルクロログリオキシレート1 m 1 を加え更に1時間撹拌した。反応液をクロロホルムにて希釈し、水、飽和食塩水にて順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し得られた残渣のヘキサン/酢酸エチル=1/1混液をシリカゲルカラム濾過した。濾液の溶媒を減圧留去し得られた残渣のトルエン80 m 1 溶液に室温にて2. 2 - アゾビス (イソブチロニトリル) 5 6 m g 及び水素化トリーn - ブチルスズ2. 3 m 1 を加え、110℃にて4時間加熱攪拌した。溶媒を減圧留去し得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(展開溶媒:ヘキサン/酢酸エチル=8/1)にて精製し、表題化合物1. 8 2 gを油状物質として得た。

82gのエタノール40ml溶液に水酸化パラジウムー炭素430mgを加え水素雰囲気下常温常圧にて6時間撹拌した。反応液をセライト濾過し溶媒を減圧留去し得られた残渣のジクロロメタン5ml溶液をジメチルスルホキシド1.1mlのジクロロメタン50ml溶液に一78℃下オギザリルクロライド0.63mlを加えて5分間攪拌した反応液に一78℃下滴下し、同温にて15分間攪拌した。反応液に更にトリエチルアミン0.5mlを加え、室温へと昇温しながら30分間攪拌した。反応液をクロロホルムにて希釈し、水、飽和食塩水にて順次洗浄後無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(展開溶媒:へキサン/酢酸エチル=8/1)にて精製し、表題化合物1.36g

工程3で得た(2R, 5R) -2-(t-ブチル)-5-(3-オキソシクロブチル)-5-フェニルー1, 3-ジオキソランー4ーオンを用い、参考例3と同様の方法にて表題化合物を製造した。

参考例13

15

20

を油状物質として得た。

(2R) - (4, 4-ジフルオロシクロヘキシル) - 2-ヒドロキシ-2-フェニル酢酸

- 工程1. (2 R, 5 R) 2 (t ブチル) 5 (1, 4 ジオキサス

 ピロ [4. 5] デカー8-イル) 5 フェニルー1, 3 ジオキソランー

 4-オンの合成
 - 1. 4 ージオキサー8 ーオキソスピロ [4. 5] デカンを用い、参考例12 工程1及び2と同様の方法にて表題化合物を製造した。
- 30 工程2. (2R, 5R) 2 (t 7fh) 5 (4 7fh)

•

キシル) -5-フェニルー1, 3-ジオキソランー4-オンの合成

工程1で得た (2R, 5R) -2-(t-ブチル) -5-(1, 4-ジオキ サスピロ [4.5] デカー8ーイル) <math>-5-フェニルー1, 3-ジオキソラ ンー4ーオン83mgのアセトン4ml水0.4ml混液に室温にて<math>p-ト ルエンスルホン酸52mgを加え50℃にて13時間撹拌した。アセトンを 減圧留去し酢酸エチルにて希釈し、飽和重曹水、飽和食塩水にて順次洗浄後 無水硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を減圧留去し表題化合物<math>70mgを油状物質として得た。

工程3. (2R) - (4, 4-97) (2R) - (2R) (2R) - (4, 4-97) (2R) - (2R) (2R)

工程2で得た(2R. 5R) -2-(tーブチル) -5-(4-オキソシクロヘキシル) -5-フェニル-1, 3-ジオキソラン-4-オンを用い、参考例3と同様の方法にて表題化合物を製造した。

5 参考例 1 4

10

20

(2R) - [(1R) - 3, 3 - ジフルオロシクロペンチル] - 2 - ヒドロ + シー2 - フェニル酢酸

30 四フッ化ホウ素ニトロソニウム20mgの70%フッ化水素-ピリジン0.

工程3. (2R) - [(1R) - (3, 3-ジフルオロシクロペンチル] - 2-ヒドロキシ-2-フェニル酢酸の合成

10 (2R, 5R) -2-(t-ブチル) -5-[(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル) -5-フェニル-1, 3-ジオキソラン-4-オンを用い、参考例1工程2と同様の方法にて表題化合物を製造した。

産業上の利用可能性

15 本発明の含フッ素 1. 4 - ジ置換ピペリジン誘導体は選択的ムスカリン M₃受容体拮抗作用を有し、かつ、優れた経口活性、作用持続性及び体内動態を示すため、副作用が少なく安全で有効な、例えば慢性閉塞性肺疾患、慢性気管支炎、喘息及び鼻炎等の呼吸器系疾患;過敏性腸症候群、痙性大腸炎、憩室炎及び消化器系平滑筋れん縮に伴う疼痛等の消化器疾患;神経性頻尿、神経因性膀胱、夜尿症、不安定膀胱、膀胱痙縮、慢性膀胱炎等の疾患における尿失禁及び頻尿等の泌尿器系疾患;及び乗り物酔いの治療又は予防剤として有用である。

10

15

20

25

30

請求の範囲

(1) 一般式[1]

 $HO \xrightarrow{Ar} C -X - X - N - R^2 \quad [I]$

「式中、Arはアリール基又は窒素原子、酸素原子及び硫黄原子からなる群 から選ばれる1~2個のヘテロ原子を有するヘテロアリール基(該アリール 基及びヘテロアリール基の環上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル 基、トリフルオロメチル基、シアノ基、水酸基、ニトロ基、低級アルコキシ カルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、アミノ基又は低級アルキ ルアミノ基で置換されていてもよい。)を表し、R'は任意の1~4個の水 素原子がフッ素原子で置換されていてもよい炭素数3~6個のシクロアルキ ル基を表し、R²は任意の1~6個の水素原子がフッ素原子で置換されてい てもよい炭素数5~15個の飽和又は不飽和の脂肪族炭化水素基、アラルキ ル基、アリールアルケニル基又は窒素原子、酸素原子及び硫黄原子からなる 群から選ばれる1~2個のヘテロ原子を有するヘテロアリールアルキル基若 しくはヘテロアリールアルケニル基(該アラルキル基、アリールアルケニル 基、ヘテロアリールアルキル基及びヘテロアリールアルケニル基の環上の任 意の1~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ 基、水酸基、ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級 アルコキシ基、アミノ基又は低級アルキルアミノ基で置換されていてもよ い。)を表し、そしてXはO又はNHを表す。但し、R'及びR2の中、少な くとも一つは、一以上のフッ素原子を有する。] で示される新規な含フッ素 1. 4 - ジ置換ピペリジン誘導体又はその薬学的に許容されうる塩。

(2) Arが低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ基、水酸基、 ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ 基、アミノ基及び低級アルキルアミノ基からなる群から選ばれる1~3個の

10

15

置換基で置換されていてもよいフェニル基である請求項1記載の化合物又は その薬学的に許容されうる塩。

- (3) R^1 が任意の $1\sim4$ 個の水素原子がフッ素原子で置換されている炭素数 $3\sim6$ 個のシクロアルキル基である請求項1記載の化合物又はその薬学的に許容されうる塩。
- (4) R'がシクロブチル基、シクロペンチル基、シクロヘキシル基、2ーフルオロシクロブチル基、3ーフルオロシクロブチル基、2. 2ージフルオロシクロブチル基、3. 3ージフルオロシクロブチル基、2. 2ージフルオロシクロペンチル基、3. 3ージフルオロシクロペンチル基、2. 2ージフルオロシクロペンチル基、3. 3ージフルオロシクロペンチル基、2. 2. 3. 3ーテトラフルオロシクロペンチル基、3. 3. 4. 4ーテトラフルオロシクロペンチル基、4ーフルオロシクロヘキシル基、3. 3ージフルオロシクロヘキシル基、3. 3ージフルオロシクロヘキシル基又は4. 4ージフルオロシクロヘキシル基、3. 3ージフルオロシクロヘキシル基又は4. 4ージフルオロシクロヘキシル基、ル基である請求項1記載の化合物又はその薬学的に許容されうる塩。
- (5) R'が2ーフルオロシクロブチル基、3ーフルオロシクロブチル基、2. 2ージフルオロシクロブチル基、3, 3ージフルオロシクロブチル基、2ーフルオロシクロペンチル基、2, 2ージフルオロシクロペンチル基、3, 3ージフルオロシクロペンチル基、2,
- 2. 3. 3ーテトラフルオロシクロペンチル基、3. 3. 4. 4ーテトラフルオロシクロペンチル基、2ーフルオロシクロヘキシル基、3ーフルオロシクロヘキシル基、3ーフルオロシクロヘキシル基、2. 2ージフルオロシクロヘキシル基、3. 3ージフルオロシクロヘキシル基又は4. 4ージフルオロシクロヘキシル基である請求項1記載の化合物又はその薬学的に許容され うる塩。
 - (6) XがNHである請求項1記載の化合物又はその薬学的に許容されうる 塩。
 - (7) R^2 が、任意の $1 \sim 6$ 個の水素原子がフッ素原子で置換されていてもよい下記式

10

15

20

25

30

(, .

[式中、Qがメチレン基、エチレン基、トリメチレン基又はテトラメチレン基を表し、R®及びR°がそれぞれ水素原子を表すか、又はR®及びR°は一緒になって単結合を形成し、R®、R®及びR°が同一若しくは相異なり、それぞれ、水素原子、低級アルキル基又は炭素数3~8個のシクロアルキル基若しくはシクロアルケニル基を表すか、或いはR®とR®又はR®とR®は、それぞれ一緒になって炭素数3~8個のシクロアルキル基又はシクロアルケニル基を形成する]で示される基である請求項1記載の化合物又はその薬学的に許容されうる塩。

- (8) R²が任意の1~6個の水素原子がフッ素原子で置換されていてもよい炭素数5~15個の直鎖状若しくは分岐状のアルキル基、アルケニル基、アルキニル基、シクロアルキル環上の任意の水素原子が低級アルキルで置換されていてもよいシクロアルキルアルキル基若しくはシクロアルキルアルケニル基、シクロアルケニル環上の任意の水素原子が低級アルキルで置換されていてもよいシクロアルケニルアルキル基若しくはシクロアルケニルアルケニル基、シクロアルケニルアルキニル基ではシクロアルケニルアルキニル基である請求項1記載の化合物又はその薬学的に許容されうる塩。
- (9) R'がベンジル基、フェネチル基、フェニルプロピル基、フェニルプロペニル基、2ーピリジルメチル基、2ーピリジルエチル基、2ーピリジルメチル基、2ーピリジルメチル基、2ーチアゾリルメチル基、3ーチエニルメチル基、1ーイミダゾリルメチル基、2ーイミダゾリルメチル基、4ーイミダゾリルメチル基、3ーピラゾリルメチル基、4ーピラゾリルメチル基、3ーピラゾリルメチル基、3ープリルメチル基、2ーピロリルメチル基、3ープリルメチル基、2ーピリミジニルメチル基、2ーピリミジニルメチル基、5ーピリミジニルメチル基、ナル基、4ーピリダジニルメチル基、4ーピリダジニルメチル基、4ーピリダジニルメチル基、4ーピリダジニルメチル基、4ーピリダジニルメチル基、4ーピリダジニルメチル基、4ーピリダジニルメチル基、4ーピリダジニルメチル基、4ーピリグジューイン

30

• •

ドリルメチル基(但し、該ベンジル基、フェネチル基、フェニルプロピル基、フェニルプロペニル基及び上記へテロアリールアルキル基の環上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ基、水酸基、ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、アミノ基又は低級アルキルアミノ基で置換されていてもよい。)である請求項1記載の化合物又はその薬学的に許容されうる塩。

- (10) R^1 が3, 3-ジフルオロシクロペンチル基であり、 R^2 が2-チェニルメチル基、3-チェニルメチル基、2-フリルメチル基、3-フリルメチル基、2-ピリジルメチル又はベンジル基(但し、該チェニルメチル基、
- 10 フリルメチル基、ピリジルメチル又はベンジル基の環上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ基、水酸基、ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、アミノ基又は低級アルキルアミノ基で置換されていてもよい。)である請求項1記載の化合物又はその薬学的に許容されうる塩。
- 15 (11) 一般式 [I] で表される化合物が、
 - $(2R) N [1 (4 \cancel{1} + \cancel{1} +$
- (2R) -N-[1-(4-メチル-3-ペンテニル) ピペリジン-4-イ ル] -2-[(1S) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロ キシー2-フェニルアセトアミド、
 - (2R) -N-[1-(4-メチル-3-ペンテニル) ピペリジン-4-イル] <math>-2-[(1S, 3S) -3-フルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド、
- - (2R) -N-[1-(4-メチル-3-ペンテニル) ピペリジン-4-イル] <math>-2-[(1R, 3S) -3-フルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシー2-フェニルアセトアミド、

30

e (

(2R) -N-[1-(4-メチル-3-ペンテニル) ピペリジンー4ーイル] <math>-2-[(1R, 3R) -3-フルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド、

N-[1-[(3Z)-4-h]] ピペリジンー4-4ル] ー2-2クロペンチルー2-4ドロキシー2-7ェニルアセトアミド、

 $N-[1-[(3\ Z)-4-7 ルオロメチル-3-ペンテニル] ピペリジン-4-7 ル] -2-シクロペンチル-2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド、$

N-[1-[(3E)-4-] ルカー 3- ペンテニル] ピペリジンー 4- イル] -2- シクロペンチルー 2- ヒドロキシー 2- フェニルアセトアミド、

(2R) -N-[1-(6-メチルピリジン-2-イルメチル) ピペリジン-4-イル] -2-[(1R)-3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド、

(2R) - N - [1 - (3 - 7) + 7) + (3 - 7) + (3

- (2R) -N-[1-(3-)++) $+\sqrt{2}$ $+\sqrt{2}$
 - $(2R) N (1 \langle 1 \rangle + \langle 1$
- 10 (2R) N [1 (3 7) n + 7
- $(2R) N [1 (3 7 \cdot 1 / 5 \cancel{1} + \cancel{1} / \cancel{2}) + (2R) (3 7 \cdot 1 / 5 \cancel{1} + \cancel{1} / \cancel{2}) + (3 7 \cdot 1 / 5 \cancel{1} + \cancel{1} / \cancel{2}) + (3 7 \cdot 1 / 5 \cancel{1} + \cancel{1} / \cancel{2}) + (3 7 \cdot 1 / 5 \cancel{1} + \cancel{1} / \cancel{2}) + (3 7 \cdot 1 / 5 \cancel{1} + \cancel{1} / \cancel{2}) + (3 7 \cdot 1 / 5 \cancel{1} + \cancel{1} / \cancel{2}) + (3 7 \cdot 1 / 5 \cancel{1} + \cancel{1} / \cancel{2}) + (3 7 \cdot 1 / 5 \cancel{1} + \cancel{1} / \cancel{2}) + (3 7 \cdot 1 / 5 \cancel{1} + \cancel{1} / \cancel{2}) + (3 7 \cdot 1 / 5 \cancel{1} + \cancel{1} / \cancel{2}) + (3 7 \cdot 1 / 5 \cancel{1} / \cancel{2}) + (3 7 \cdot 1 / 5 \cancel{1} + \cancel{1} / \cancel{2}) + (3 7 \cdot 1 / 5 \cancel{1} + \cancel{1} / \cancel{2}) + (3 7 \cdot 1 / 5 \cancel{1} + \cancel{1}) + (3 7 \cdot 1 / 5 \cancel{1}) + (3 -$
 - (2R) $-N-[1-(3-r = 1/\sqrt 2)\nu)$ $(2R) = 1/\sqrt 2$ $(2R) = 1/\sqrt 2$ (2

15

e (.

 $(2R) - N - [1 - (2 - 7 \cdot 1 / x \cdot y \cdot x)] + (2R) - N - [1 - (2 - 7 \cdot 1 / x \cdot y \cdot x)] + (2 - 1 \cdot 1 \cdot x) + (2 - 1$

N-[1-(4-r = 1/4) 2/4] 2/4 - 4/4] -2-1 [(1R) -3, 3-3/4] 3/4 -2-1 [(1R) -3, 3-3/4] -2-1 [(1R) -3/4] -2-1 [(1

(2R) -N-[1-(4-r)]-3-y++シベンジル) ピペリジンー <math>4-7ル]-2-[(1R)-3, 3-ジフルオロシクロペンチル]-2-ヒドロキシー2-フェニルアセトアミド、

10 (2R) -N-[1-(3,5-ジアミノベンジル) ピペリジンー4ーイル] <math>-2-[(1R)-3,3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド、

(2R) -N-[1-(5-メチルフラン-2-イルメチル) ピペリジンー <math>4- (2R) - (2R)

 $(2R) - N - [1 - (3 - \cancel{y} + \cancel{y} +$

(2R) -N-[1-(4-メトキシベンジル) ピペリジンー4ーイル] - 2-[(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] <math>-2-ヒドロキシー 2-フェニルアセトアミド、

 $(2R) - N - [1 - (3 - T \in J - 5 - J + F \in X)]$ $(2R) - N - [1 - (3 - T \in J - 5 - J + F \in X)]$ $(2R) - N - [1 - (3 - T \in J - 5 - J + F \in X)]$ $(2R) - N - [1 - (3 - T \in J - 5 - J + F \in X)]$ $(2R) - N - [1 - (3 - T \in J - 5 - J + F \in X)]$ $(2R) - N - [1 - (3 - T \in J - 5 - J + F \in X)]$ $(2R) - N - [1 - (3 - T \in J - 5 - J + F \in X)]$ $(2R) - N - [1 - (3 - T \in J - 5 - J + F \in X)]$ $(2R) - N - [1 - (3 - T \in J - 5 - J + F \in X)]$ $(2R) - N - [1 - (3 - T \in J - 5 - J + F \in X)]$ $(2R) - N - [1 - (3 - T \in J - 5 - J + F \in X)]$ $(2R) - N - [1 - (3 - T \in J - 5 - J + F \in X)]$ $(2R) - N - [1 - (3 - T \in J - 5 - J + F \in X)]$ $(2R) - [1 - (3 - T \in J - 5 - J + F \in X)]$

15

• ; -

- $(2R) N [1 (3 7 \cdot 1) 4 7 \cdot 1) + (3 7 \cdot 1)$
- - (2R) N [1 (ベンズイミダゾールー5 イルメチル) ピペリジンー4 イル] 2 [(1R) 3, 3 ジフルオロシクロペンチル] 2 ヒドロキシー2 フェニルアセトアミド、
- (2R) -N-[1-(6-r)] (2R) -N-[1-(6-r)] (2R) -2-(n) (3) -2-(n) (3) -2-(n) (3) -2-(n) (4) -2-(n) (5) -2-(n) (6) -2-(n) (7) -2-(n) (7) -2-(n) (8) -2-(n) (9) -2-(n) (9) -2-(n) (10) -2-(n)
 - (2R) -N-[1-(6-アミノピリジン-2-イルメチル) ピペリジン-4-イル] <math>-2-(4, 4-ジフルオロシクロヘキシル) -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド又は
- (2R) -N-[1-(6-アミノピリジン-2-イルメチル) ピペリジン-4-イル] -2-[(1R) -3、3-ジフルオロシクロペンチル] -2-(4-フルオロフェニル) -2-ヒドロキシアセトアミドである請求項1記載の化合物又はその薬学的に許容されうる塩。
 - (12) 一般式[I] で表される化合物が、
- 30 (2R) N- [1-(6-メチルピリジン-2-イルメチル) ピペリジ

20

25

2ーフェニルアセトアミド、

~ 4 ·

 $\nu-4-4\nu$] $-2-[(1R)-3, 3-97\nu$ オロシクロペンチル] $-2-12\nu$

(2R) -N-[1-(2-フリルメチル) ピペリジンー4-イル] -2[(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシー2フェニルアセトアミド、

 $(2R) - N - [1 - (2 - l^2 l) \frac{1}{2} \frac{1}{2}$

(2R) -N-[1-(3-メトキシベンジル) ピペリジンー4ーイル] ー2-[(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシー2-フェニルアセトアミド、

 $(2R) - N - (1 - \langle 1 \rangle + \langle 1$

 $(2R) - N - [1 - (3 - 7) \nu + 7 \nu + 7 \nu + 1 \nu +$

(2R) - N - [1 - (6 - 7 + 7)] + (2R) - 2 - 7 + (4 + 7)

10

20

25

 $\nu-4-4\nu$] $-2-[(1R)-3, 3-97\nu$ オロシクロペンチル] -2-ヒドロキシー2-フェニルアセトアミド、

 $(2R) - N - [1 - (3 - 7 \cdot 1 / 3 - 7 \cdot 1$

N-[1-(4-r)]/(1-2-r) [(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド、

(2R) - N - [1 - (5 - メチルフラン - 2 - イルメチル) ピペリジン - 4 - イル] - 2 - [(1R) - 3, 3 - ジフルオロシクロペンチル] - 2 - ヒドロキシー2 - フェニルアセトアミド、

30 (2 R) -N- [1- (4-メトキシベンジル) ピペリジン-4-ィル] -

~ 4. ·

2-[(1R)-3, 3-ジフルオロシクロペンチル]-2-ヒドロキシー2-フェニルアセトアミド、

(2R) -N-[1-(6-T)]-4-x チルピリジン-2-7 ル ピペ リジン-4-7ル] -2-[(1R)-3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシー2-フェニルアセトアミド、

(2R) -N - [1 - (3-アミノー4-フルオロベンジル) ピペリジンー 4-イル] -2 - [(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2 - ヒドロキシー2 - フェニルアセトアミド、

(2R) - N - [1 - (5 - T = 1 - 2 - 7) ルオロベンジル) ピペリジンー 4 - 4 - 4 - 7 - 2 - [(1R) - 3, 3 - ジフルオロシクロペンチル] - 2 - ヒドロキシー2 - フェニルアセトアミド、

(2R) -N-[1-(4-アミノ-3, 5-ジフルオロベンジル) ピペリジン-4-イル] -2-[(1R)-3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド、

(2R) - N - [1 - (ペンズイミダゾールー5 - イルメチル) ピペリジンー4 - イル] - 2 - [(1R) - 3, 3 - ジフルオロシクロペンチル] - 2 - ヒドロキシー2 - フェニルアセトアミド、

(2R) - N - [1 - (6 - 7 + 7)] + (2R) - (30 + 7) + (30

• 🗼 •

 $\nu = 4 - 4 \mu$ $-2 - (3, 3 - 97) \mu + 2 \mu + 2 \mu + 2 \mu + 2 \mu + 3 \mu$

(2R) -N-[1-(6-アミノピリジン-2-イルメチル) ピペリジン-4-イル] <math>-2-(4, 4-ジフルオロシクロヘキシル) -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド又は

(2R) -N-[1-(6-アミノピリジン-2-イルメチル) ピペリジン-4-イル] -2-[(1R)-3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-(4-フルオロフェニル) -2-ヒドロキシアセトアミドである請求項1記載の化合物又はその薬学的に許容されうる塩。

- (13) (2R) -N- [1-(6-アミノピリジン-2-イルメチル) ピペリジン-4-イル] -2- [(1R) -3, 3-ジフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニルアセトアミド又はその薬学的に許容されうる塩。
 - (14)請求項1記載の一般式 [I] の化合物又はその薬学的に許容しうる 塩及び1種以上の薬学的に許容しうる添加剤からなる医薬組成物。
 - (15) ムスカリンM₃受容体が関与する疾患、例えば慢性閉塞性肺疾患、慢性気管支炎、喘息、慢性気道閉塞、肺繊維症及び鼻炎等の呼吸器系疾患:過敏性腸症候群、消化管の痙攣又は運動機能亢進、憩室炎及び消化器系平滑筋れん縮に伴う疼痛等の消化器系疾患;頻尿、尿意切迫感及び尿失禁等の排尿障害等の泌尿器系疾患及び乗り物酔いの治療又は予防のために使用される請求項13記載の医薬組成物。
 - (16)請求項1記載の一般式[I]の化合物又はその薬学的に許容しうる塩を使用することを特徴とするムスカリンM3受容体が関与する疾患、例えば慢性閉塞性肺疾患、慢性気管支炎、喘息、慢性気道閉塞、肺繊維症及び鼻炎等の呼吸器系疾患;過敏性腸症候群、消化管の痙攣又は運動機能亢進、憩室炎及び消化器系平滑筋れん縮に伴う疼痛等の消化器系疾患;頻尿、尿意切迫感及び尿失禁等の排尿障害等の泌尿器系疾患及び乗り物酔いの治療又は予防方法
 - (17) (a) —般式[III]

15

20

· 4) ·

[式中、Arは請求項1記載の意味を有し、R'では任意の1~4個の水素原子がフッ素原子で置換されていてもよい炭素数3~6個のシクロアルキル基又は未保護若しくは保護された1~2個の水酸基若しくはオキソ基を有する炭素数3~6個のシクロアルキル基を表す]で示されるカルボン酸又はその反応性誘導体を、一般式[IV]

10

15

20

25

30

5

$$HX - N - R^{20}$$
 [IV]

[式中、R²⁰は任意の1~6個の水素原子がフッ素原子で置換されていても よい炭素数5~15個の飽和若しくは不飽和の脂肪族炭化水素基、未保護若 しくは保護された1~2個の水酸基又はオキソ基を有する炭素数5~15個 の飽和若しくは不飽和の脂肪族炭化水素基、アラルキル基、アリールアルケ ニル基又は窒素原子、酸素原子及び硫黄原子からなる群から選ばれる1~2 個のヘテロ原子を有するヘテロアリールアルキル基若しくはヘテロアリール アルケニル基(但し、該アラルキル基、アリールアルケニル基、ヘテロア リールアルキル基及びヘテロアリールアルケニル基の環上の任意の1~3個 の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ基、水酸基、 ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ 基、未保護若しくは保護されたアミノ基、未保護若しくは保護された低級ア ルキルアミノ基又はアラルキルオキシカルボニル基で置換されていてもよ い。)を表し、そしてXはNH又はOを表す。]で示される化合物又はその 塩と反応させ、R1º又はR2ºが未保護若しくは保護された1~2個の水酸基 又はオキソ基を有する場合は、そのまま又は保護基を除去した後、該水酸基 又はオキソ基をフッ素原子に変換し、保護されたアミノ基又は保護された低 級アルキルアミノ基を有する場合は保護基の除去を行い、低級アルコキシカ ルボニル基又はアラルキルオキシカルボニル基を有する場合は、アミノ基へ

の変換反応を行い、或いは

(b) 上記一般式 [III] のカルボン酸又はその反応性誘導体を一般式 [V]

5

$$HX - V - E \quad \{V\}$$

[式中、Eはイミノ基の保護基を表し、Xは前記の意味を有する。] で示される化合物又はその塩と反応させ、得られる一般式 [VI]

10

15

20

$$HO \xrightarrow{\text{N-}E} V - E \qquad [VI]$$

[式中、Arは請求項1記載の意味を有し、R'°、X及びEは前記の意味を有する。] で示される化合物を脱保護した後、一般式 [VII]

$$R^{20}-L$$
 [VII]

[式中、Lは脱離基を表し、そしてR²⁰は前記の意味を有する。] で示される化合物と、必要に応じて塩基の存在下に反応させ、そして必要に応じて上記と同様のR¹⁰及びR²⁰の変換反応を行い、或いは

(c) 上記一般式 [VI] の化合物を脱保護した後、一般式 [VIII]

$$R^{21}$$
-CHO [VIII]

25

30

[式中、R²¹は任意の1~6個の水素原子がフッ素原子で置換されていてもよい炭素数4~14個の飽和若しくは不飽和の脂肪族炭化水素基、未保護若しくは保護された1~2個の水酸基又はオキソ基を有する炭素数4~14個の飽和若しくは不飽和の脂肪族炭化水素基、アリール基、アラルキル基、アリールアルケニル基又は窒素原子、酸素原子及び硫黄原子からなる群から選

WO 98/05641

ばれる1~2個のヘテロ原子を有するヘテロアリール基、ヘテロアリールアルキル基若しくはヘテロアリールアルケニル基(但し、該アリール基、アラルキル基、アリールアルケニル基、ヘテロアリール基、ヘテロアリールアルキル基及びヘテロアリールアルケニル基の環上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ基、水酸基、ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコキシ基、未保護若しくは保護された低級アルキルアミノ基又はアラルキルオキシカルボニル基で置換されていてもよい。)を表す。〕で示される化合物と還元的アルキル化反応に付し、そして必要に応じて上記と同様のR¹⁰及びR²¹の変換反応を行うことからなる請求項1記載の一般式[I]の含フッ素1、4~ジ置換ピペリジン誘導体の製造方法。

(18) (2R) -2-[(1R)-3, 3-ジフルオロシクロペンチル] <math>-2-ヒドロキシー2-フェニル酢酸

(19) 6-tertーブチルオキシカルボニルアミノピリジンー2ーメタ ノール、6-tertーブチルオキシカルボニルアミノピリジンー2ーイル メチル メタンスルホネート、6-tertーブチルオキシカルボニルアミ ノピリジンー2ーイルメチルクロライド又は6-tertーブチルオキシカ ルボニルアミノピリジンー2ーイルメチルブロマイド

20

15

10

要約書

本発明は、一般式「1]

5

10

15

20

25

$$HO \xrightarrow{\text{Ar} O} X \xrightarrow{\text{N-} R^2} [I]$$

[式中、Arはアリール基又は窒素原子、酸素原子及び硫黄原子からなる群 から選ばれる1~2個のヘテロ原子を有するヘテロアリール基(該アリール 基及びヘテロアリール基の環上の任意の1~3個の水素原子は低級アルキル 基等で置換されていてもよい。)を表し、R'は任意の1~4個の水素原子 がフッ素原子で置換されていてもよい炭素数3~6個のシクロアルキル基を 表し、R²は任意の1~6個の水素原子がフッ素原子で置換されていてもよ い炭素数5~15個の飽和又は不飽和の脂肪族炭化水素基、アラルキル基、 アリールアルケニル基又は窒素原子、酸素原子及び硫黄原子からなる群から 選ばれる1~2個のヘテロ原子を有するヘテロアリールアルキル基若しくは ヘテロアリールアルケニル基(該アラルキル基、アリールアルケニル基、ヘ テロアリールアルキル基及びヘテロアリールアルケニル基の環上の任意の1 ~3個の水素原子は低級アルキル基、トリフルオロメチル基、シアノ基、水 酸基、ニトロ基、低級アルコキシカルボニル基、ハロゲン原子、低級アルコ キシ基、アミノ基等で置換されていてもよい。)を表し、そしてXはO又は NHを表す。但し、R'及びR'の中、少なくとも一つは、一以上のフッ素原 子を有する。] で示される新規な含フッ素 1, 4 - ジ置換ピペリジン誘導体 又はその薬学的に許容されうる塩に関するものである。

本発明の化合物は選択的ムスカリンM₃受容体拮抗作用を有し、かつ、優れた経口活性、作用持続性及び体内動態を示すため、副作用が少なく安全で有効な、呼吸器系疾患、泌尿器系疾患消化器系疾患の治療又は予防剤として有用である。

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP97/02600

A. CLA Int.	SSIFICATION OF SUBJECT MATTER C16 C07D211/46, 211/58, 2	13/75, 401/06, 405/06	, 409/06,			
A61K31/445, C07C59/56 According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC						
B. FIELDS SEARCHED						
Minimum de	ocumentation searched (classification system followed by	classification symbols)				
Int.	Int. C1 ⁶ C07D211/46, 211/58, 213/75, 401/06, 405/06, 409/06, A61K31/445, C07C59/56					
Documentat	Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched					
1	Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used) CA (STN), REGISTRY (STN)					
C. DOCU	MENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT					
Category*	Citation of document, with indication, where a	ppropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.			
P,A	WO, 97/13766, A1 (Banyu Pha Ltd.), April 17, 1997 (17. 04. 97) Particularly pages 4 to 13; & AU, 9671459, A	,	1 - 18			
P,A	WO, 96/33973, Al (Banyu Pha Ltd.), October 31, 1996 (31. 10. 9 & AU, 9655139, A		1 - 18			
. A	TEMPLE, Carroll, Jr. et al. agents", Journal of Medicir Vol. 32, No. 10, p. 2364, S	nal Chemistry, 1989,	19			
Further documents are listed in the continuation of Box C. See patent family annex.						
* Special categories of cited documents: "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention						
"L" document	cited to establish the publication date of another citation or other					
"O" docume means	means combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a nesson skilled in the art.					
	"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed "E" document member of the same patent family					
Date of the actual completion of the international search October 27, 1997 (27. 10. 97) Date of mailing of the international search report November 5, 1997 (05. 11. 97)						
Name and o	nailing address of the ISA/	Authorized officer				
Japa	anese Patent Office	Telephone No				

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP97/02600

Box I	Observations where certain claims were found unsearchable (Continuation of item 1 of first sheet)
This interes	national search report has not been established in respect of certain claims under Article 17(2)(a) for the following reasons:
ı. 🗆	Claims Nos.; because they relate to subject matter not required to be searched by this Authority, namely:
2.	Claims Nos.: because they relate to parts of the international application that do not comply with the prescribed requirements to such an extent that no meaningful international search can be carried out, specifically:
	Claims Nos.: because they are dependent claims and are not drafted in accordance with the second and third sentences of Rule 6.4(a).
	Observations where unity of invention is lacking (Continuation of item 2 of first sheet)
Comp prod hydrathos methodomic neit	Claims 1 to 17 pertain to piperidine derivatives, medicinal positions containing these derivatives and processes for ducing these derivatives. Claim 18 pertains to (2R)-2-((1R)-3,3-difluorocyclopenty1)-2-roxy-2-phenylacetic acid having a structure not falling within second to the above-mentioned piperidine derivatives. Claim 19 pertains to 6-tert-butyloxycarbonylaminopyridine-2-anol derivatives having structures not falling within those on to the above-mentioned piperidine derivatives. Such being the case, these inventions are considered her as one invention nor as relating to a group of inventions As all required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers all searchable claims. As all searchable claims could be searched without effort justifying an additional fee, this Authority did not invite payment of any additional fee.
4. 🗀 1	covers only those claims for which fees were paid, specifically claims Nos.: No required additional search fees were timely paid by the applicant. Consequently, this international search report is restricted to the invention first mentioned in the claims; it is covered by claims Nos.:
Remark of	The additional search fees were accompanied by the applicant's protest. No protest accompanied the payment of additional search fees.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

	PCT/JP97/02600
Continuation of Box No. II of continuation of	
so linked as to form a single general inven	tive concept.

	<u> </u>			
	はする分野の分類(国際特許分類(IPC)) 「CO7D211/46、211/58, 21 A61K31/445、 CO7C59/56	3/75, 401/06, 405/06	5, 409/06.	
B. 調査を行	テった公路			
	」ったガザ 女小限資料(国際特許分類(IPC))			
	C07D211/46, 211/58, 21	3/75, 401/06, 405/06	. 409/06.	
	A61K31/445.			
	C07C59/56			
最小限資料以外	トの資料で調査を行った分野に含まれるもの			
関数調本ではE		想本に伸出した田弥〉		
CA (ST)		神(直代に)(1) した(1) (1) (1)		
	TRY (STN)			
REGIS	11(1 (5 114)			
C. 関連する	5と認められる文献			
引用文献の			関連する	
カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連すると		請求の範囲の番号	
P, A	WO, 97/13766, A1(萬有製薬株式	会社) 1 7. 4月. 1 9 9 7 (17.04.97)	1-18	
	特に第4-13頁,スキーム1			
	&AU, 9671459, A			
			_	
P, A	WO, 96/33973, A1(萬有製薬株式	会社) 3 1 . 1 0 月 . 1 9 9 6 (31.10.96)	1-18	
	&AU, 9655139, A			
	www.p.d. 11 T. 4.1 W		19	
A	TEMPLE, Carroll, Jr. et al., "New anticancer		1 9	
	Chemistry, 1989, Vol. 32, No. 10, p. 2364, S	coemeti		
□ C欄の統	とにも文献が列挙されている。	□ パテントファミリーに関する別	紙を参照。	
* 引用文献の		の日の後に公表された文献		
「A」特に関連	単のある文献ではなく、一般的技術水準を示す	「丁」国際出願日又は優先日後に公表		
6 0		て出願と矛盾するものではなく、	発明の原理又は理	
「E」先行文献ではあるが、国際出願日以後に公表されたも		論の理解のために引用するもの	1	
0		「X」特に関連のある文献であって、		
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行		の新規性又は進歩性がないと考え		
日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する		「Y」特に関連のある文献であって、 上の文献との、当業者にとってE		
文献(理由を付す)		上の文献との、目来名にとっていまって進歩性がないと考えられる		
「O」ロ頭による開示、使用、展示等に言及する文献 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願 「		「&」同一パテントファミリー文献	2 600	
「『」国际山原『別じ、『『夏兀惶の土波の基礎となる山原』「な」同一パテントノチミリー人歌				
国際調査を完	7した日	国際調査報告の発送日		
27.10.97		05.11.97		
21, 10, 51				
国際調査機関の名称及びあて先		特許庁審査官(権限のある職員)	4C 8014	
日本国特許庁(ISA/JP)		小川 慶子 印	 	
郵便番号100				
東京都	第千代田区霞が関三丁目4番3号	電話番号 03-3581-1101	内森 3452	

第1欄 請求の範囲の一部の調査ができないときの意見 (第1ページの1の続き)
法第8条第3項(PCT17条(2)(a))の規定により、この国際調査報告は次の理由により請求の範囲の一部について作成しなかった。
1. 請求の範囲 は、この国際調査機関が調査をすることを要しない対象に係るものである。 つまり、
2. 請求の範囲 は、有意義な国際調査をすることができる程度まで所定の要件を満たしていない国際出願の部分に係るものである。つまり、
3. 請求の範囲 は、従属請求の範囲であってPCT規則6.4(a)の第2文及び第3文の規定に 従って記載されていない。
第Ⅱ欄 発明の単一性が欠如しているときの意見 (第1ページの2の続き)
次に述べるようにこの国際出願に二以上の発明があるとこの国際調査機関は認めた。
- 請求の範囲1-17は、ピペリジン誘導体、該誘導体を含有する医薬組成物及び該誘導体の製造方法に関するものであ
開来の範囲1-17は、Eペリンン跨導体、映影導体を含有する医薬組成物及び設誘導体の製造方法に関するものである。
請求の範囲18は、上記ピペリジン誘導体の共通の構造に含まれない構造を有する(2R)-2-[(1R)-3,3
ージフルオロシクロペンチル] -2-ヒドロキシ-2-フェニル酢酸に関するものである。 請求の範囲19は、上記ピペリジン誘導体の共通の構造に含まれない構造を有する6-tert-ブチルオキシカルボニル
アミノピリジン-2-メタノール誘導体に関するものである。
これらは、一の発明であるとも、単一の一般的発明概念を形成するように連関している一群の発明であるとも認められない。
1. X 出願人が必要な追加調査手数料をすべて期間内に納付したので、この国際調査報告は、すべての調査可能な請求 の範囲について作成した。
2. <u></u> 追加調査手数料を要求するまでもなく、すべての調査可能な請求の範囲について調査することができたので、追加調査手数料の納付を求めなかった。
3. 出願人が必要な追加調査手数料を一部のみしか期間内に納付しなかったので、この国際調査報告は、手数料の納付のあった次の請求の範囲のみについて作成した。
4. U 出願人が必要な追加調査手数料を期間内に納付しなかったので、この国際調査報告は、請求の範囲の最初に記載されている発明に係る次の請求の範囲について作成した。
追加調査手数料の異議の申立てに関する注意
追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがあった。
又 追加調査手数料の納付と共に出願人から異難由立てがかかった

THIS PAGE BLANK (USPTO)